

別 冊 2

土木工事監督マニュアル

平成13年4月

佐賀県土木部

土木工事監督マニュアルの考え方

1. 土木工事監督マニュアルの目的

このマニュアルは、佐賀県が施工する土木工事の現場で、実務に関する統一的な運用を確保するために、工事監督に携わる監督員を対象としてまとめたもので、土木工事实施時に現場監督業務の、内容、手続き、監督方法、頻度等についての、標準的な考え方や留意事項を示したものである。

2. 用語の定義

- (1) 「監督」 設計図書における発注者の責務を適切に遂行するために工事施工状況の確認及び把握等を行い、契約の適切な履行を確保する業務をいう。
- (2) 「監督員」 総括監督員、主任監督員及び一般監督員をいう。
- (3) 「監督の方法」 次に掲げる行為をいう。
 - ①指示 監督員が請負者に対し、工事の施工上必要な事項について書面をもって示し実施させることをいう。
 - ②承諾 設計図書で明示した事項で、請負者が監督員に対し書面で申し出た工事の施工上必要な事項について、監督員が書面により同意することをいう。
 - ③協議 書面により設計図書の協議事項について、発注者と請負者が対等の立場で合議し結論を得ることをいう。
 - ④通知 監督員が請負者に対し、工事の施工に関する事項について書面をもって知らせることをいう。
 - ⑤受理 設計図書に基づき請負者の責任において監督員に提出された書面を監督員が受け取り、内容

を把握することをいう。

⑥確認

設計図書に示された事項について、監督員が臨場若しくは請負者が提出した資料により、監督員がその内容について設計図書との適合を確かめ、請負者に対して認めることをいう。

⑦把握

監督員が臨場若しくは請負者が提出又は提示した資料により施工状況、使用材料、提出資料の内容等について、監督員が設計図書との適合を自ら認識しておくことをいい、請負者に対して認めるものではない。

3. 「監督頻度」の考え方

確認・把握の方法については、臨場若しくは請負者が提出又は提示した資料により行い、工事全体の施工状況等について確認・把握するもので、監督頻度（確認・把握の頻度）は工事全体に対するものであり偏った確認・把握にならないように、注意する必要がある。

監督業務は、「監督」の定義にもあるとおり、施工状況の確認及び把握が重要な行為である。ここで、確認及び把握の頻度は目安であり工事内容及び施工状況を勘案して決定することとしている。

4. 「一般監督」と「重点監督」

一般監督と重点監督の区分は次のとおりとする。

(1) 一般監督：重点監督以外の工事

(2) 重点監督：①施工条件が厳しい工事

- ・ 鉄道又は現道上及び、最大支間長100m以上の橋梁工事
- ・ 掘削深さ5m以上の土留工及び締切工を有する工事
- ・ 鉄道・道路等の重要構造物の近接工事
- ・ 軟弱地盤上での構造物
- ・ 場所打ちPC橋

- ・ハイピア（躯体高30m以上）

②第三者に対する影響のある工事

- ・周辺地域等へ地盤変動等の影響が予想される掘削を伴う工事
- ・一般交通に供する路面覆工・仮橋等を有する工事
- ・河川堤防と同等の機能の仮締め切りを有する工事

目 次

第1編 共通編

第3章 一般施工

第3節 共通的工種

- 3-3-3 作業土工（床掘り・埋戻し）・・・・・・・・ 1
- 3-3-4 矢板工・・・・・・・・ 2

第4節 基礎工

- 3-4-3 法留基礎工・・・・・・・・ 3
- 3-4-4 既製杭工・・・・・・・・ 4
- 3-4-5 場所打杭工・・・・・・・・ 5
- 3-4-6 深礎工・・・・・・・・ 6
- 3-4-7 オープンケーソン基礎工・・・・・・・・ 7
- 3-4-8 ニューマチックケーソン基礎工・・・・・・・・ 7
- 3-4-9 鋼管井筒基礎工・・・・・・・・ 8

第6節 一般舗装工

- 3-6-5 アスファルト舗装工・・・・・・・・ 9
- 3-6-6 コンクリート舗装工・・・・・・・・ 10
- 3-6-7 薄層カラー舗装工・・・・・・・・ 10

第7節 地盤改良工

- 3-7-2 路床安定処理工・・・・・・・・ 11
- 3-7-3 置換工・・・・・・・・ 11

- 3-7-4 表層安定処理工（表層混合処理）・・・・・・ 11
- 表層安定処理工（置換）・・・・・・ 12
- 3-7-6 サンドマット工・・・・・・・・ 12
- 3-7-7 パーチカルドレーン工・・・・・・・・ 12
- 3-7-8 締固め改良工・・・・・・・・ 13
- 3-7-9 固結工・・・・・・・・ 13
- 固結工（薬液注入）・・・・・・ 14

第4章 土工

第3節 河川土工・海岸土工・砂防土工

- 4-3-2 掘削工（切土工）・・・・・・・・ 14
- 4-3-3 盛土工・・・・・・・・ 15

第4節 道路土工

- 4-4-2 掘削工（切土工）・・・・・・・・ 15
- 4-4-3 路体盛土工・・・・・・・・ 15
- 4-4-4 路床盛土工・・・・・・・・ 16

第2編 河川編

第1章 築堤・護岸

第3節 護岸基礎工

- 1-3-3 法留基礎工・・・・・・・・ 17

第4節 矢板護岸工

- 1-4-4 矢板工・・・・・・・・ 18

第5節 法覆護岸工

1-5-1	一般事項	18
1-5-4	護岸付属物工	19
第6節 擁壁護岸工		
1-6-3	コンクリート擁壁工	20
第7節 根固め工		
1-7-4	間詰工	21
第9節 付帯道路工		
1-9-3	アスファルト舗装工	21
1-9-4	コンクリート舗装工	22
1-9-5	薄層カラー舗装工	23
1-9-6	ブロック舗装工	23
第3章 樋門・樋管		
第3節 樋門・樋管本体工		
3-3-3	既製杭工	24
3-3-4	場所打杭法	25
3-3-5	矢板工	26
3-3-6	函渠工	27
3-3-7	翼壁工	28
第5節 水路工		
3-5-6	暗渠工	29
3-5-7	樋門接続暗渠工	30
第4章 水門		
第3節 水門工		

4-3-3	水門	31
第4節 水門の塗装		
4-4-3	水門塗装	32
第5章 堰		
第3節 工場製作工		
5-3-4	桁製作工	32
5-3-14	工場塗装	33
第4節 可動堰本体工		
5-4-2	作業土木(床掘り・埋戻し)	33
5-4-3	既製杭工	34
5-4-4	場所打杭工	35
5-4-5	オープンケーソン基礎工	36
5-4-6	ニューマチックケーソン基礎工	37
5-4-7	矢板工	38
5-4-8	床版工	38
5-4-9	堰柱工	39
5-4-10	門柱工	39
5-4-11	ゲート操作台工	40
5-4-12	水叩工	41
5-4-13	閘門工	42
5-4-14	土砂吐工	43
5-4-15	取付擁壁工	44
第5節 固定堰本体工		
5-5-3	既製杭工	45

5-5-4	場所打杭工	46
5-5-5	オープンケーソン基礎工	47
5-5-6	ニューマチックケーソン基礎工	48
5-5-7	矢板工	49
5-5-8	堰本体工	50
5-5-9	水叩工	51
5-5-10	土砂吐工	52
5-5-11	取付擁壁工	53
第6節 魚道工		
5-6-3	魚道本体工	54
第7節 管理橋下部工		
5-7-2	管理橋橋台工	55
第8節 鋼管理橋上部工		
5-8-10	現場継手工	56
5-8-11	橋梁現場塗装工	56
5-8-12	床版工	57
5-8-15	管理橋舗装工	57
第9節 コンクリート管理橋上部工		
5-9-3	ポストテンションT (I) 桁製作工	58
5-9-5	プレキャストブロック桁組立工	58
5-9-6	PCホロースラブ製作工	58
5-9-7	PC箱桁製作工	58
5-9-11	床版・横組工	58
5-9-14	橋梁現場塗装工	59
5-9-15	管理橋舗装工	59

第6章 排水機場

第3節 機場本体工

6-3-2	作業土工 (床掘り・埋戻し)	60
6-3-3	既製杭工	61
6-3-4	場所打杭工	62
6-3-5	矢板工	63
6-3-6	本体工	64
6-3-7	燃料貯油漕工	65

第4節 沈砂池工

6-4-3	既製杭工	66
6-4-4	場所打杭工	67
6-4-5	矢板工	68
6-4-6	コンクリート擁壁工	69
6-4-7	コンクリート床版工	70
6-4-8	ブロック床版工	70

第5節 吐出水槽工

6-5-3	既製杭工	71
6-5-4	場所打杭工	72
6-5-5	矢板工	73
6-5-6	本体工	74

第7章 床止め・床固め

第3節 床止め工

7-3-4	既製杭工	75
7-3-5	矢板工	76
7-3-6	本体工	77
7-3-7	取付擁壁工	78
7-3-8	水叩工	78
第4節 床固め工		
7-4-4	本堤工	78
7-4-5	垂直壁工	78
7-4-6	側壁工	78
第5節 山留擁壁工		
7-5-3	コンクリート擁壁工	78
第8章 河川維持		
第7節 管理用通路補修工		
8-7-5	アスファスト舗装補修工	79
第9章 河川修繕		
第6節 管理用通路修繕工		
9-6-3	舗装打換え工	79
9-6-4	オーバーレイ工	79
第7節 現場塗装工		
9-7-3	付属物塗装工	80

第3編 海岸編

第1章 堤防・護岸

第3節 護岸基礎工

1-3-3	捨石工	81
1-3-4	場所打コンクリート工	81
1-3-5	海岸コンクリートブロック工	81
1-3-7	法留基礎工	81
1-3-8	矢板工	82

第4節 護岸工

1-4-3	捨石張り工	82
1-4-4	石張り・石積み工	82
1-4-5	海岸コンクリートブロック工	82
1-4-7	現場打擁壁工	83

第5節 天端被覆工

1-5-2	コンクリート被覆工	84
1-5-3	アスファルト被覆工	85

第6節 波返工

1-6-3	波返工	86
-------	-----	----

第7節 裏法被覆工

1-7-2	石張り・石積み工	87
1-7-3	コンクリートブロック工	87
1-7-5	アスファルト被覆工	87

第10節 付帯道路工

1-10-3	アスファルト舗装工	87
1-10-4	コンクリート舗装工	88
1-10-5	薄層カラー舗装工	89

第2章 突堤・人工岬

第3節 突堤基礎工

2-3-4	捨石工	90
-------	-----	----

第4節 突堤本体工

2-4-2	捨石工	90
2-4-3	海岸コンクリートブロック工	90
2-4-4	既製杭工	91
2-4-5	詰杭工	91
2-4-6	矢板工	92
2-4-7	石砕工	92
2-4-8	場所打コンクリート工	92
2-4-9	ケーソン工	93
2-4-10	セルラー工	94

第5節 根固め工

2-5-3	捨石工	95
2-5-4	根固めブロック工	95

第6節 消波工

2-6-2	捨石工	95
2-6-3	消波ブロック工	95

第3章 海域堤防（人工リーフ、離岸堤、潜堤）

第3節 海域堤基礎工

3-3-3	捨石工	95
-------	-----	----

第4節 海域堤本体工

3-4-2	捨石工	95
3-4-3	海岸コンクリートブロック工	95
3-4-4	ケーソン工	96
3-4-5	セルラー工	97
3-4-6	場所打コンクリート工	97

第4編 砂防編

第1章 砂防ダム

第3節 工場製作工

1-3-5	工場塗装工	98
-------	-------	----

第4節 コンクリートダム工

1-4-3	コンクリートブロック本体工	99
1-4-4	コンクリート副ダム工	99
1-4-5	コンクリート側壁工	99
1-4-6	間詰工	99
1-4-7	水叩工	99

第5節 鋼製ダム工

1-5-4	鋼製ダム本体工	99
1-5-5	鋼製側壁工	99
1-5-6	コンクリート側壁工	99

1-5-7	間詰工	99
1-5-8	水叩工	99
1-5-9	現場塗装工	100
第6節 護床工・根固め工		
1-6-4	間詰工	101
第8節 付帯道路工		
1-8-3	アスファルト舗装工	102
1-8-4	コンクリート舗装工	103
1-8-5	薄層カラー舗装工	104

第2章 流路

第3節 流路護岸工

2-3-3	法留基礎工	104
2-3-4	コンクリート擁壁工	105

第4節 床固め工

2-4-3	床固め本体工	106
2-4-4	垂直壁工	106
2-4-5	側壁工	106
2-4-6	水叩工	106
2-4-7	魚道工	106

第5節 根固め・水制工

2-5-4	間詰工	106
-------	-----	-----

第3章 斜面对策

第4節 擁壁工

3-4-3	既製杭工	107
3-4-4	現場打擁壁工	108
3-4-8	小型擁壁工	108

第7節 地下水遮断工

3-7-3	現場打擁壁工	108
3-7-4	小型擁壁工	108
3-7-5	固結工	109
3-7-6	矢板工	109

第8節 抑止杭・アンカー工

3-8-2	既製杭工	110
3-8-3	場所打杭工	111
3-8-4	シャフト工(深礎工)	112
3-8-5	合成杭工	113

第6編 道路編

第1章 道路改良

第5節 擁壁工

1-5-3	既製杭工	114
1-5-4	場所打杭工	115
1-5-5	現場打擁壁工	116
1-5-9	小型擁壁工	116

第6節 カルバート工

1-6-4	既製杭工	117
1-6-5	場所打杭工	118
1-6-6	場所打カルバート工	119

第9節 遮音壁工

1-9-4	既製杭工	120
-------	------	-----

第2章 舗装

第3節 舗装工

2-3-4	橋面防水工	121
2-3-5	アスファルト舗装工	121
2-3-6	半たわみ性舗装工	121
2-3-7	排水性舗装工	121
2-3-8	グースアスファルト舗装工	121
2-3-9	コンクリート舗装工	122
2-3-10	薄層カラー舗装工	123
2-3-11	ブロック舗装工	123

第3章 橋梁下部

第4節 橋台工

3-4-3	既製杭工	124
3-4-4	場所打杭工	125
3-4-5	深礎工	126
3-4-6	オープンケーソン基礎工	127
3-4-7	ニューマチックケーソン基礎工	127

3-4-8	躯体工	128
-------	-----	-----

第5節 RC橋脚工

3-5-3	既製杭工	129
3-5-4	場所打杭工	130
3-5-5	深礎工	131
3-5-6	オープンケーソン基礎工	132
3-5-7	ニューマチックケーソン基礎工	132
3-5-8	鋼管井筒基礎工	133
3-5-9	RC躯体工	134

第6節 鋼製橋脚工

3-6-3	既製杭工	135
3-6-4	場所打杭工	136
3-6-5	深礎工	137
3-6-6	オープンケーソン基礎工	138
3-6-7	ニューマチックケーソン基礎工	138
3-6-8	鋼管井筒基礎工	139
3-6-9	橋脚フーチング工	140
3-6-11	現場継手工	141
3-6-12	現場塗装工	141

第7節 護岸工

3-7-4	法留基礎工	141
-------	-------	-----

第4章 鋼橋上部

第3節 工場製作工

4-3-3	桁製作工	142
第5節 橋梁現場塗装工		
4-5-3	現場塗装工	142
第6節 床版工		
4-6-2	床版工	143
第9節 歩道橋本体工		
4-9-3	既製杭工	144
4-9-4	場所打杭工	145
4-9-5	橋脚フーチング工	146
4-9-7	現場塗装工(歩道橋)	147

第5章 コンクリート橋上部

第3節 工場製作工

5-3-2	プレビーム用桁製作工	148
-------	------------	-----

第4節 コンクリート主桁製作工

5-4-3	ポストテンションT(I)桁製作工	149
5-4-5	プレキャストブロック桁製作工	149
5-4-6	プレビーム桁製作工	149
5-4-7	PCホロースラブ製作工	149
5-4-8	RC場所打ホロースラブ製作工	149
5-4-9	PC版桁製作工	149
5-4-10	PC箱桁製作工	149
5-4-11	PC片持箱桁製作工	149
5-4-12	PC押し出し箱桁製作工	149

第6節 床版・横組工

5-6-2	床版・横組工	149
-------	--------	-----

第8節 橋梁付属物工

5-8-9	現場塗装工	150
-------	-------	-----

第6章 トンネル(NATM)

第3節 トンネル掘削工

6-3-1	一般事項	150
6-3-2	掘削工	150

第4節 支保工

6-4-3	吹付工	151
6-4-4	ロックボルト工	151

第5節 覆工

6-5-3	覆工コンクリート工	151
6-5-4	側壁コンクリート工	151

第6節 インバート工

6-6-4	インバート本体工	152
-------	----------	-----

第7章 トンネル(矢板)

第3節 トンネル掘削工

7-3-1	一般事項	152
7-3-2	掘削工	152

第5節 覆工

7-5-3	覆工コンクリート工	153
-------	-----------	-----

第8章 共同溝

第3節 工場製作工

8-3-3 工場塗装工・・・・・・・・・・154

第4節 開削土工

8-4-2 掘削工・・・・・・・・・・154

第5節 現場打ち構築工

8-5-2 現場打ち躯体工・・・・・・・・・・155

第6節 プレキャスト構築工

8-6-3 縦締工・・・・・・・・・・156

8-6-4 横締工・・・・・・・・・・156

第9章 電線共同溝

第3節 電線共同溝

9-3-4 現場打ちボックス工・・・・・・・・・・157

第10章 キャブ

第3節 キャブ工

10-3-2 現場打ちキャブ工・・・・・・・・・・157

第11章 道路維持

第4節 舗装維持工

11-4-4 アスファルト舗装補修工・・・・・・・・・・158

第6節 構造物補修工

11-6-8 部材塗装工・・・・・・・・・・159

第8節 植栽維持工

11-8-3 樹木・芝管理工・・・・・・・・・・159

第12章 雪寒

第3節 除雪工

12-3-5 凍結防止工・・・・・・・・・・159

第13章 道路修繕

第3節 工場製作工

13-3-4 RC橋脚巻立て鋼板製作工・・・・・・・・・・160

第4節 舗装修繕工

13-4-4 舗装打換え工・・・・・・・・・・160

13-4-5 オーバーレイ工・・・・・・・・・・160

13-4-6 路上再生路盤工・・・・・・・・・・161

13-4-7 路上表層再生工・・・・・・・・・・161

13-4-9 歩道舗装修繕工・・・・・・・・・・162

第7節 現場塗装工

13-7-3 橋梁現場塗装工・・・・・・・・・・162

13-7-4 付属物塗装工・・・・・・・・・・162

13-7-5 張紙防止塗装工・・・・・・・・・・162

第7編 下水道編

第1章 管路

第4節 開削工

1-4-3	管の布設	163
-------	------	-----

第5節 推進工

1-5-2	掘削	163
-------	----	-----

1-5-3	推進工	163
-------	-----	-----

1-5-4	裏込め注入工	163
-------	--------	-----

第6節 シールド工

1-6-1	シールドマシンの構造	164
-------	------------	-----

1-6-2	一次覆工	164
-------	------	-----

1-6-3	二次覆工	164
-------	------	-----

1-6-5	裏込め注入工	164
-------	--------	-----

第 1 編 共 通 編

第3章 一般施工
 第3節 共通的工種

1-3-3-3 : 作業土工 (床掘、埋戻) …… (重要構造物)

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
土 (岩) 質の変化した時	1-3-3-3	・土 (岩) 質変化位置	・監督職員は土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘掘削完了時		・支持地盤 (直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ (基準高) を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等 (試験費用は別途計上) の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
埋戻し前		・設計図書との対比 (可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻し前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

重要構造物とは、函渠工、躯体工 (橋台)、RC躯体工 (橋脚)、RC擁壁工、橋脚フーチング工、砂防ダム、堰本体工、排水機場本体工、水門工、共同溝本体工をいう。

1-3-3-4 : 矢板工 (鋼矢板) 仮設を除く

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
打込時	1-3-3-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認 (品質・規格) を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に板長を測定し、打設長 (根入れ長) を算出し設計根入れ長と比較する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験 (JIS Z 2343)、放射線透過試験 (JIS Z 3104) 又は超音波探傷試験 (JIS Z 3060) により確認する。 	段階確認書		確認	試験矢板+ 一般:1回/ 150枚 重点:1回/ 100枚	溶接部の試験方法は特記仕様書に示された方法による。
打込完了時		基準高、変位	<ul style="list-style-type: none"> ・基準高、変位が規格値以内であるか確認する。 	"		確認	試験矢板+ 一般:1回/ 150枚 重点:1回/ 100枚	

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
打込時	1-3-3-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に板長を測定し、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。	段階確認書		確認	試験片板+ 一般：1回/ 75本 重点：1回/ 50本	溶接部の試験方法は特記仕様書に示された方法による。
打込完了時		基準高、変位	・基準高、変位が規格値以内であるか確認する。	”		”	”	

第4節 基礎工

1-3-4-3 : 法留基礎工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
設置完了時	1-3-4-3	・設計図書との対比（不可視部分の出来形）	・不可視部分について埋戻し前に設計図書と現地で対比する。	段階確認書		確認	1回/1工	

1-3-4-4 : 既製杭工 (既製コンクリート杭、鋼管杭、H鋼杭)

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
打込時	1-3-4-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較し確認する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を確認するとともに、支持力を算定し設計支持力と比較し確認する。 また、基準高、偏心量を確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
打込完了時（振杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	〃	
掘削完了時（中継杭）		・掘削長さ、杭の先端土質	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	〃		確認	〃	
施工完了時（中継杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	〃	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・鋼管杭、H鋼杭 鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理について施工状況を確認する。 ・コンクリート杭 杭を切断した場合の補強方法、中詰補強の配筋等の杭頭処理状況を確認する。	〃		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	

1-3-4-5 : 場所打杭工(リバース杭、オルケシング杭、アースリキ杭、大口杭)

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
掘削完了時	1-3-4-5	・掘削、長さ支持地盤	・杭の掘削完了時、掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法(継手長結束状況)及びかぶりについて確認する。	〃		確認	一般：30%程度 /1構造物 重点：60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。	〃		把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	
施工完了時		・基準高、偏心量、杭径	・基準高、偏心量、杭径が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・杭頭部コンクリートの品質及び仕上げ状況、帯鉄筋の径、本数、間隔及び定着長について確認する。	〃		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	

1-3-4-6 : 深礎工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	1-3-4-6	・土(岩)質変化位置	監督職員は土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	
掘削完了時		・長さ、支持地盤	・杭の掘削完了時、掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較して確認する。 ・杭の長さを現地で確認する。	〃		確認	一般:1回/3本 重点:全数	
鉄筋組立完了時		・使用材料、設計図書との対比	・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法(継手長結束状況)及びかぶりについて現地で確認する。 ・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	〃		確認	1回/1本	
施工完了時		・基準高、偏心量、径	・基準高、偏心量、径が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	一般:1回/3本 重点:全数	
グラウト注入時		・使用材料、使用量	・注入モルタルの配合及び記録計等により使用量を確認する。 ・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	〃		確認	一般:1回/3本 重点:全数	

契約書第18条に関わる条件変更の確認

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
鉄杵据え付け完了時	1-3-4-7 1-3-4-8	・使用材料、 施工位置	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか。また、施工位置を確認する。	段階確認書		確認	1回/1構造物	契約書第18条に関わる条件変更の確認
本体設置前(オープンケ-ソン)		・支持層	・安全な初期の沈設できるような地盤であるかを確認する。	〃		確認	1回/1構造物	
掘削完了時(ニュ-マチックケ-ソン)		・支持層	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と確認する。	〃		確認	1回/1構造物	
土(岩)質の変化した時		・土(岩)質 変化位置	・監督職員は土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	〃		確認	1回/土(岩)質 の変化毎	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、 設計図書との 対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて現地で確認する。	〃		確認	1回/1ロット	
コンクリ-ト打設時		・品質規格、 運搬時間、打 設順序、天候 気温	・コンクリ-トの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	

1-3-4-9 : 鋼管井筒基礎工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
打込時	1-3-4-9	<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料、長さ、溶接部の適否、支持力 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較し確認する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を把握するとともに、支持力を算定し設計支持力と比較する。 ・工法を指定した場合は、周辺部への影響、杭の状況施工性等から、工法の適否について確認する。 	段階確認書		確認	試験杭+ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	溶接部の試験方法は特記仕様書に示された方法による。
打込完了時		<ul style="list-style-type: none"> ・基準高、偏心量 	<ul style="list-style-type: none"> ・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。 	"		"	試験杭+ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
杭頭処理完了時		<ul style="list-style-type: none"> ・杭頭処理状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理について施工状況を確認する。 	"		"	一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	

第6節 一般舗装工

1-3-6-5: アスファルト舗装

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
舗設時	1-3-6-5	<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料、敷均し、縮固め状況、天候、気温、舗設温度等 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか把握する。 ・下層、上層路盤（粒状路盤） 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、縮固めが、行われているか把握する。 ・下層、上層路盤（セメント及び石灰安定処理） 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、天候、敷均し、縮め固め状況について把握する 			把握	一般： 1回/1工事 重点： 1回/3000㎡	

1-3-6-6 : コンクリート舗装

1-3-6-7 : 薄層カラー舗装

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
舗設時	1-3-6-6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用材料、敷均し、締め固め状況、天候、気温、舗設温度等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか把握する。 ・ 下層、上層路盤（粒状路盤） 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、締め固めが、行われているか把握する。 ・ 下層、上層路盤（セメント及び石灰安定処理） 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・ アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、敷均し、天候、締め固め状況について把握する ・ コンクリート舗装 目地金物、鉄網の設置及び敷均し、締め固め状況について把握する。 			把握	一般： 1回/1工事 重点： 1回/3000㎡	

第7節 地盤改良

1-3-7-3 : 置換工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
掘削完了時	1-3-7-3	・使用材料、幅、延長、置換厚さ、支持地盤	・使用材料は品質、形状、寸法、使用法を目視で確認する。 ・土の突固め試験（道路の場合はCBR試験も）結果表により材料の確認を行う。 ・幅、長さ、深さ、及び地盤支持力を測量や目視、平板載荷試験等により設計図書と対比し確認する。	段階確認書		確認	1回/1箇所	

1-3-7-2 : 路床安定処理工

1-3-7-4 : 表層安定処理工（表層混合処理）

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
処理完了時	1-3-7-2 1-3-7-4	・使用材料、基準高、幅、延長、施工厚さ	・幅、施工厚さ及び長さを確認する。 ・伝票などにより処理材料の使用量を確認し、設計数量と比較する。	段階確認書		確認	一般： 1回/1工事 重点： 1回/100m	

1-3-7-4 : 表層安定処理工 (置換)

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
掘削完了時	1-3-7-4	・使用材料、幅、延長、置換厚さ	・使用材料は品質、形状、寸法、使用法を目視で確認する。 ・幅、長さ及び置換厚さについて確認する。	段階確認書		確認	一般: 1回/1工事 重点: 1回/100m	

1-3-7-6 : サンドマット工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
処理完了時	1-3-7-6	・使用材料、幅、延長、施工厚さ	・使用材料は品質、形状、寸法、使用法を目視で確認する。 ・幅、長さ及び施工厚さについて確認する。	段階確認書		確認	一般: 1回/1工事 重点: 1回/100m	

1-3-7-7 : パーチカルドレーン工 (サンドドレーン、~~罫式~~サンドドレーン、~~ハ~~-~~パ~~-ドレーン)

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
施工時	1-3-7-7	・使用材料、打込長さ	・使用材料の品質 (特に粒度) 及び長さについて、確認する。	段階確認書		確認	一般: 1回/200本 重点: 1回/100本	

1-3-7-8 : 締固め改良工 (サンドコンパクションパイル)

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
施工時	1-3-7-8	・使用材料、打込長さ	・砂杭の施工管理記録により砂杭の打込長さを確認する。 ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	段階確認書		確認	一般： 1回/200本 重点： 1回/100本	
施工完了時		・基準高、施工位置、杭径	・砂杭の基準高、設置間隔、杭径が規格値以内か確認する。	”		”	”	

1-3-7-9 : 固結工 (粉体噴射機拌、高圧噴射機拌、セメントミルク機拌、生石灰パイル)

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
施工時	1-3-7-9	・使用材料、深度	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・施工管理記録により杭の打込長さ確認する。	段階確認書		確認	一般： 1回/200本 重点： 1回/100本	
施工完了時		・基準高、施工位置、杭径	・杭の基準高、設置間隔、杭径を確認する。	”		”	”	

1-3-7-9 : 固結工 (薬液注入)

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
施工時	1-3-7-9	・ 使用材料、 深度、注入量	・ 材料確認 (品質・規格) を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・ 注入量を確認するとともに、薬液の保管、注入作業管理、排出水等の処理、周辺の地下水・地盤の状況等の測定・監視等をしながら施工しているかを確認する。	段階確認書		確認	一般: 1回/20本 重点: 1回/10本	

第4章 土工

第3節 河川土工・海岸土工・砂防土工

1-4-3-2 : 掘削工 (切土工)

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
土 (岩) の変化し た時	1-4-3-2	・ 土 (岩) 質 、変化位置	・ 土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質 の変化毎	契約書第18条 に関わる条件変更 の確認

1-4-3-3 : 盛土工 (河川、道路、海岸、砂防)

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
敷均し、 転圧時	1-4-3-3	・使用材料、 敷均し、縮固 め状況	・土の敷ならし及び締固めについて、使用材料、敷均し 厚さ・方向、施工機種等について把握する。			把握	一般: 1回/1工事 重点:2~3 回/1工事	

第4節 道路土工

1-4-4-2 : 掘削工 (切土工)

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩) 質の変化 した時	1-4-4-2	・土(岩)質 、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認 する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質 の変化毎	契約書第18条 に関わる条件変更 の確認

1-4-4-3 : 路体盛土工 (道路土工)

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
敷均し、 転圧時	1-4-4-3	・使用材料、 敷均し、縮固 め状況	・土の敷ならし及び締固めについて、敷ならし厚・方向 機種等について把握する。			把握	一般: 1回/1工事 重点:2~3 回/1工事	

1-4-4-4 : 路床盛土工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
敷均し、 転圧時	1-4-4-4	・使用材料、 敷均し、縮固 め状況	・土の敷ならし及び締固めについて、敷ならし厚・方向 機種等について把握する。			把握	一般: 1回/1工 重点:2~3 回/1工	
ブル-ローリ ング実施 時	1-4-4-4	・ブル-ローリ ング実施状況	・路床盛土仕上後、路床全体にわたっての、ブル-ローリ ング実施時にたわみについて状況を確認する。	段階確認書		確認	1回/1工	

第 2 編 河 川 編

第2編 河川編
 第1章 築堤・護岸
 法 線

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
法線設置 完了時		・法線設置状 況	・法線の設置状況について設計図書と対比し確認する。	段階確認書		確認	1回/1法線	

第3節 護岸基礎工
 2-1-3-3 : 法留基礎工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
設置完了 時	1-3-4-3	・設計図書と の対比（不可 視部分の出来 形）	・不可視部分について、埋戻し前に設計図書と現地で対 比し確認する。	段階確認書		確認	1回/1工事	

2-1-3-4 : 矢板工

第4節 矢板護岸工

2-1-4-4 : 矢板工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
打込時	1-3-3-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に板長を測定し、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。	段階確認書		確認	試験板+ 一般:1回/ 75本 重点:1回/ 50本	溶接部の試験方法は特記仕様書に示された方法による。
打込完了時		基準高、変位	・基準高、変位が規格値以内であるか確認する。	"		"	"	

第5節 法覆護岸工

2-1-5-1 : 一般事項

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
覆土前	2-1-5-1	・設計図書との対比（不可視部分の出来形）	・不可視部分について、覆土前に設計図書と現地で対比し確認する。	段階確認書		確認	1回/1工	

2-1-5-4 : 護岸付属物工 (小口止矢板)

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
打込時	1-3-3-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認 (品質・規格) を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に板長を測定し、打設長 (根入れ長) を算出し設計根入れ長と比較する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験 (JIS Z 2343)、放射線透過試験 (JIS Z 3104) 又は超音波探傷試験 (JIS Z 3060) により確認する。 	段階確認書		確認	試験矢板+ 一般:1回/ 75本 重点:1回/ 50本	溶接部の試験方法は特記仕様書に示された方法による。
打込完了時		基準高、変位	<ul style="list-style-type: none"> ・基準高、変位が規格値以内であるか確認する。 	〃		〃	〃	

第6節 擁壁護岸工

2-1-6-3 : コンクリート擁壁工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	2-1-6-3	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時	1-3-3-3	・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	"		確認	一般: 30%程度 / 1構造物 重点: 60%程度 / 1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

第7節 根固め工

2-1-7-4 : 間詰工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
設置完了前	2-1-7-4	・設計図書との対比（不可視部分の出来形）	・不可視部分について、埋戻し前に設計図書と現地で対比する。	段階確認書		確認	1回/1工	

第9節 付帯道路工

2-1-9-3 : アスファルト舗装工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
舗設時	1-3-6-5	・使用材料、敷均し、締固め状況、天候、気温、舗設温度等	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか把握する。 ・下層、上層路盤（粒状路盤） 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、締固めが、行われているか把握する。 ・下層、上層路盤（セメント及び石灰安定処理） 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、天候、敷均し、締め固め状況について把握する 			把握	一般： 1回/1工 重点： 1回/3000㎡	

2-1-9-4 : コンクリート舗装工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
舗設時	1-3-6-6	<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料、敷均し、締め状況、天候、気温、舗設温度等 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか把握する。 ・下層、上層路盤（粒状路盤） 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、締めめが、行われているか把握する。 ・下層、上層路盤（セメント及び石灰安定処理） 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、敷均し、天候、締め固め状況について把握する ・コンクリート舗装 目地金物、鉄網の設置及び敷均し、締め固め状況について把握する。 			把握	一般： 1回/1工事 重点： 1回/3000㎡	

2-1-9-5 : 薄層カラー舗装工

2-1-9-6 : ブロック舗装工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
舗設時	1-3-6-5	<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料、敷均し、締固め状況、天候、気温、舗設温度等 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか把握する。 ・下層、上層路盤（粒状路盤） 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、締固めが、行われているか把握する。 ・下層、上層路盤（セメント及び石灰安定処理） 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、天候、敷均し、締め固め状況について把握する 			把握	一般： 1回/1工事 重点： 1回/3000㎡	

第3章 樋門・樋管
 第3節 樋門・樋管本体工
 2-3-3-3 : 既製杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
打込時	1-3-4-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較し確認する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を確認するとともに、支持力を算出し設計支持力と比較し確認する。 また、基準高、偏心量を確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
打込完了時（打込杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	〃	
掘削完了時（中継杭）		・掘削長さ、杭の先端土質	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	〃		確認	〃	
施工完了時（中継杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	〃	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・鋼管杭、H鋼杭 鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理について施工状況を確認する。 ・コンクリート杭 杭を切断した場合の補強方法、中詰補強の配筋等の杭頭処理状況を確認する。	〃		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	

2-3-3-4 : 場所打杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
掘削完了時	1-3-4-5	・掘削、長さ支持地盤	・杭の掘削完了時、掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて確認する。	〃		確認	一般：30%程度 /1構造物 重点：60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	
施工完了時		・基準高、偏心量、杭径	・基準高、偏心量、杭径が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・杭頭部コンクリートの品質及び仕上げ状況、帯鉄筋の径、本数、間隔及び定着長について確認する。	〃		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	

2-3-3-5 : 矢板工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
打込時	1-3-3-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に板長を測定し、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 	段階確認書		確認	試験回数 一般：1回/ 75本 重点：1回/ 50本	溶接部の試験方法は特記仕様書に示された方法による。
打込完了時		基準高、変位	<ul style="list-style-type: none"> ・基準高、変位が規格値以内であるか確認する。 	"		"	"	

2-3-3-6 : 函渠工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	1-3-3-3	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比しし確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

2-3-3-7 : 翼壁工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	1-3-3-3	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に因る条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘削完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

第5節 水路工

2-3-5-6 : 暗渠工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	1-3-3-3	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

2-3-5-7 : 樋門接続暗渠工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	1-3-3-3	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	〃		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	〃		確認	一般: 30%程度 /1構造物 重点: 60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	〃		確認	1回/1構造物	

第4章 水門

第3節 水門

2-4-3-3 : 水門

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	1-3-3-3	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

第4節 水門の塗装

2-4-4-3 : 水門塗装

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
清掃・錆落とし施工時	2-4-4-3	・清掃・錆落とし状況	・清掃、錆落とし状況を把握する。			把握	1回/1工	
施工時		・使用材料、天候、気温	・塗料缶の数量及び製造年月日(有効期限)、天候と気温が施工に適しているかを把握する。			把握	1回/1工	

第5章 堰

第3節 工場製作

2-5-3-4 : 桁製作工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
仮組立て完了時 (仮組立てが省略となる場合を除く)	2-5-3-4	・キャンパ-、寸法等	・キャンパ-、寸法を確認する。	段階確認書		確認	一般 重点:1回/ 1構造物	

2-5-3-14 : 工場塗装

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
清掃・錆落とし施工時	2-5-3-14	・清掃・錆落とし状況	・清掃、錆落とし状況を把握する。			把握	1回/1工事	
施工時		・使用材料、天候、気温	・塗料缶の数量及び製造年月日(有効期限)、天候と気温が施工に適しているかを把握する。			把握	1回/1工事	

第4節 可動堰本体工

2-5-4-2 : 作業土工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	1-3-3-3	・土(岩)質変化位置	・監督職員は土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は重要構造物では床掘削完了時に、掘削深さ(標高)及び支持地盤の適否を、測量及び目視又は平板載荷試験等により、設計図書と対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻し前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

2-5-4-3: 既製杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
打込時	1-3-4-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較し確認する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を確認するとともに、支持力を算出し設計支持力と比較し確認する。 また、基準高、偏心量を確認する。 	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
打込完了時（打込杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	"		確認	"	
掘削完了時（中掘杭）		・掘削長さ、杭の先端土質	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	"		確認	"	
施工完了時（中掘杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	"		確認	"	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・鋼管杭、H鋼杭 鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理について施工状況を確認する。 ・コンクリート杭 杭を切断した場合の補強方法、中詰補強の配筋等の杭頭処理状況を確認する。 	"		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	

2-5-4-4 : 場所打杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
掘削完了時	1-3-4-5	・掘削、長さ支持地盤	・杭の掘削完了時、掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて確認する。	”		確認	一般：30%程度 /1構造物 重点：60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。	”		把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	
施工完了時		・基準高、偏心量、杭径	・基準高、偏心量、杭径が規格値以内であるか確認する。	”		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・杭頭部コンクリートの品質及び仕上げ状況、帯鉄筋の径、本数、間隔及び定着長について確認する。	”		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	

2-5-4-5 : オープンケーソン基礎工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考	
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度		
鉄杵据え付け完了時	1-3-4-7	・使用材料、施工位置	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか。また、施工位置を確認する。	段階確認書		確認	1回/1構造物		
本体設置前(オープンケーソン)		・支持層	・安全な初期の沈設できるような地盤であるかを確認する。	〃		確認	1回/1構造物		
掘削完了時(ニューマチックケーソン)		・支持層	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と確認する。	〃		確認	1回/1構造物		
土(岩)質の変化した時		・土(岩)質変化位置	・監督職員は土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	〃		確認	1回/土(岩)質の変化毎		契約書第18条に関わる条件変更の確認
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて現地で確認する。	〃		確認	1回/1ロット		
コンクリート打設時	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット			

2-5-4-6 : ニューマチックケーソン基礎工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
鉄柵据え付け完了時	1-3-4-8	・使用材料、施工位置	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか。また、施工位置を確認する。	段階確認書		確認	1回/1構造物	契約書第18条に関わる条件変更の確認
本体設置前(オープンケーソン)		・支持層	・安全な初期の沈設できるような地盤であるかを確認する。	"		確認	1回/1構造物	
掘削完了時(ニューマチックケーソン)		・支持層	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と確認する。	"		確認	1回/1構造物	
土(岩)質の変化した時		・土(岩)質変化位置	・監督職員は土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	"		確認	1回/土(岩)質の変化毎	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて現地で確認する。	"		確認	1回/1ロット	
コンクリート打設時	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット		

2-5-4-7 : 矢板工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
打込時	1-3-3-4	・ 使用材料、長さ、溶接部の適否	・ 材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・ 打設前に板長を測定し、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較する。 ・ 継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。	段階確認書		確認	試験矢板+ 一般：1回/ 75本 重点：1回/ 50本	溶接部の試験方法は特記仕様書に示された方法による。
打込完了時		基準高、変位	・ 基準高、変位が規格値以内であるか確認する。	"		"	"	

2-5-4-8 : 床版工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
鉄筋組立て完了時	2-5-4-8	・ 使用材料、設計図書との対比	・ 材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・ 鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継ぎ手方法（継ぎ手長結束状況）及びかぶりについて現地で確認する。	段階確認書		確認	一般：30%程度 /1構造物 重点：60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・ 品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・ 品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般：1回/ 1構造物 重点：1回/ 1ロット	

2-5-4-9 : 堰柱工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
鉄筋組立て完了時	2-5-4-8	・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継ぎ手方法(継ぎ手長結束状況)及びかぶりについて現地で確認する。	段階確認書		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般:1回/ 1構造物 重点:1回/ 1ロット	

2-5-4-10 : 門柱工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
鉄筋組立て完了時	2-5-4-8	・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継ぎ手方法(継ぎ手長結束状況)及びかぶりについて現地で確認する。	段階確認書		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般:1回/ 1構造物 重点:1回/ 1ロット	

2-5-4-11 : ゲート操作台工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
鉄筋組立 て完了時	2-5-4-11	・ 使用材料、 設計図書との 対比	・ 材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用して いるか確認する。 ・ 鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継ぎ手方法(継ぎ手長 結束状況)及びかぶりについて現地で確認する。	段階確認書		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打 設時		・ 品質規格、 運搬時間、打 設順序、天候 気温	・ 品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等につ いて把握する。			把握	一般:1回/ 1構造物 重点:1回/ 1ロット	

2-5-4-12 : 水叩工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	2-5-4-12	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比しし確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

2-5-4-13 : 閘門工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
鉄筋組立て完了時	2-5-4-9	・ 使用材料、設計図書との対比	・ 材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・ 鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継ぎ手方法(継ぎ手長結束状況)及びかぶりについて現地で確認する。	段階確認書		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・ 品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・ 品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般:1回/ 1構造物 重点:1回/ 1ロット	

2-5-4-14 : 土砂吐工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	2-5-5-8	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘削完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

2-5-4-15 : 取付擁壁工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	2-5-4-15	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	〃		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	〃		確認	一般: 30%程度 /1構造物 重点: 60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	〃		確認	1回/1構造物	

第5節 固定堰本体工
2-5-5-3: 既製杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
打込時	1-3-4-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較し確認する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を確認するとともに、支持力を算定し設計支持力と比較し確認する。 また、基準高、偏心量を確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
打込完了時（打込杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	”		確認	”	
掘削完了時（中掘杭）		・掘削長さ、杭の先端土質	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	”		確認	”	
施工完了時（中掘杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	”		確認	”	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・鋼管杭、H鋼杭 鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理について施工状況を確認する。 ・コンクリート杭 杭を切断した場合の補強方法、中詰補強の配筋等の杭頭処理状況を確認する。	”		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	

2-5-5-4 : 場所打杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
掘削完了時	1-3-4-5	・掘削、長さ支持地盤	・杭の掘削完了時、掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて確認する。	”		確認	一般：30%程度 /1構造物 重点：60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	
施工完了時		・基準高、偏心量、杭径	・基準高、偏心量、杭径が規格値以内であるか確認する。	”		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・杭頭部コンクリートの品質及び仕上げ状況、帯鉄筋の径、本数、間隔及び定着長について確認する。	”		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	

2-5-5-5 : オープンケーソン基礎工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考	
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度		
鉄杵据え付け完了時	1-3-4-7	・使用材料、施工位置	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか。また、施工位置を確認する。	段階確認書		確認	1回/1構造物		
本体設置前(オープンケーソン)		・支持層	・安全な初期の沈設できるような地盤であるかを確認する。	〃		確認	1回/1構造物		
掘削完了時(ニューマチックケーソン)		・支持層	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と確認する。	〃		確認	1回/1構造物		
土(岩)質の変化した時		・土(岩)質変化位置	・監督職員は土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	〃		確認	1回/土(岩)質の変化毎		契約書第18条に関わる条件変更の確認
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて現地で確認する。	〃		確認	1回/1ロット		
コンクリート打設時	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット			

2-5-5-6 : ニューマチックケーソン基礎工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考	
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度		
鉄杵据え付け完了時	1-3-4-8	・使用材料、施工位置	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか。また、施工位置を確認する。	段階確認書		確認	1回/1構造物		
本体設置前(オープンケーソン)		・支持層	・安全な初期の沈設できるような地盤であるかを確認する。	〃		確認	1回/1構造物		
掘削完了時(ニューマチックケーソン)		・支持層	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と確認する。	〃		確認	1回/1構造物		
土(岩)質の変化した時		・土(岩)質変化位置	・監督職員は土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	〃		確認	1回/土(岩)質の変化毎		契約書第18条に関わる条件変更の確認
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて現地で確認する。	〃		確認	1回/1ロット		
コンクリート打設時	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット			

2-5-5-7 : 矢板工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
打込時	1-3-3-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に板長を測定し、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。	段階確認書		確認	試験矢板+ 一般:1回/ 75本 重点:1回/ 50本	溶接部の試験方法は特記仕様書に示された方法による。
打込完了時		基準高、変位	・基準高、変位が規格値以内であるか確認する。	”		”	”	

2-5-5-8 : 堰本体工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	2-5-5-8	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	〃		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比しし確認する。	〃		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	〃		確認	1回/1構造物	

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
土（岩）質の変化した時	2-5-4-12	・土（岩）質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤（直接基礎）	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ（基準高）を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等（試験費用は別途計上）の試験結果で確認する。	”		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比しし確認する。	”		確認	一般：30%程度 /1構造物 重点：60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比（不可視部分の出来形）	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	”		確認	1回/1構造物	

2-5-5-10 : 土砂吐工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	2-5-5-8	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘削完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

2-5-5-11 : 取付擁壁工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	2-5-4-15	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	〃		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比しし確認する。	〃		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	〃		確認	1回/1構造物	

第6節 魚道工

2-5-6-3 : 魚道本体工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	2-5-6-3	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	〃		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	〃		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	〃		確認	1回/1構造物	

第7節 管理橋下部工

2-5-7-2 : 管理橋橋台工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	2-5-7-2	・土(岩)質、変化位置	・監督職員は、土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温等	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般:1回/ 1構造物 重点:1回/ 1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図と現地で対比する。	段階確認書		確認	1回/1構造物	
沓座の位置決定時		・沓座の位置	・前後の下部工沓座との相互関係及び沓座の高さ等について確認する。	"		確認	1回/1構造物	

第8節 鋼管理橋上部工

2-5-8-10 : 現場継手工 (接触面を塗装する場合)

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
清掃・錆 落とし施 工時	2-5-8-10	・清掃・錆落 とし状況	・清掃、錆落とし状況を把握する。			把握	1回/1工	
施工時		・使用材料、 天候、気温	・塗料缶の数量及び製造年月日(有効期限)、天候と気温 が施工に適しているかを把握する。			把握	1回/1工	

2-5-8-11 : 橋梁現場塗装工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
清掃・錆 落とし施 工時	2-5-8-11	・清掃・錆落 とし状況	・清掃、錆落とし状況を把握する。			把握	1回/1工	
施工時		・使用材料、 天候、気温	・塗料缶の数量及び製造年月日(有効期限)、天候と気温 が施工に適しているかを把握する。			把握	1回/1工	

2-5-8-12 : 床版工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
鉄筋組立て完了時	2-5-8-12	・ 使用材料、設計図書との対比	・ 材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・ 鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継ぎ手方法(継ぎ手長結束状況)及びかぶりについて現地で確認する。	段階確認書		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・ 品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・ 品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般:1回/ 1構造物 重点:1回/ 1ロット	

2-5-8-15 : 管理橋舗装工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
舗設時	1-3-6-4	・ 使用材料、敷均し、締め状況、天候、気温、舗設温度等	・ 材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか把握する。 ・ 下層、上層路盤(粒状路盤) 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、締め状況が、行われているか把握する。 ・ 下層、上層路盤(セメント及び石灰安定処理) 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・ アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、天候、敷均し、締め状況について把握する			把握	一般: 1回/1工事 重点: 1回/3000㎡	

第9節 コンクリート管理橋上部工

- 2-5-9-3 : ポストテンションT(I)桁製作工
- 2-5-9-5 : プレキャストブロック桁組立工
- 2-5-9-6 : PCホロースラブ桁製作工
- 2-5-9-7 : PC箱桁製作工
- 2-5-9-11 : 床版・横組工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
コンクリート打設時	2-5-9-3	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般:1回/ 1構造物 重点:1回/ 1ロット	
プレストレス導入完了時、横締め作業完了時		・設計図書との対比	・プレストレス導入時に設計図書と対比し、作業状況を確認する。	段階確認書		確認	一般:5%程度 /総ケーブル数 重点:10%程度 /総ケーブル数	
プレストレス導入完了時、縦締め作業完了時		・設計図書との対比	・プレストレス導入時に設計図書と対比し、作業状況を確認する。	"		確認	一般:10%程度 /総ケーブル数 重点:20%程度 /総ケーブル数	
PC割線・鉄筋組立完了時(工場製作を除く)		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継ぎ手方法(継ぎ手長結束状況)及びかぶりについて確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	

2-5-9-14: 橋梁現場塗装工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
清掃・錆落とし施工時	2-5-8-9	・清掃・錆落とし状況	・清掃、錆落とし状況を把握する。			把握	1回/1工事	
施工時		・使用材料、天候、気温	・塗料缶の数量及び製造年月日(有効期限)、天候と気温が施工に適しているかを把握する。			把握	1回/1工事	

2-5-9-15: 管理橋舗装工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
舗設時	2-5-8-13	・使用材料、敷均し、締固め状況、天候、気温、舗設温度等	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか把握する。 ・下層、上層路盤(粒状路盤) 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、締固めが、行われているか把握する。 ・下層、上層路盤(セメント及び石灰安定処理) 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、天候、敷均し、締固め状況について把握する 			把握	一般: 1回/1工事 重点: 1回/3000㎡	

第6章 排水機場

第3節 機場本体工

2-6-3-2: 作業土工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	1-3-3-3	・土(岩)質変化位置	・監督職員は土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は重要構造物では床掘削完了時に、掘削深さ(標高)及び支持地盤の適否を、測量及び目視又は平板載荷試験等により、設計図書と対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻し前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

2-6-3-3: 既製杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
打込時	1-3-4-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較し確認する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を確認するとともに、支持力を算定し設計支持力と比較し確認する。また、基準高、偏心量を確認する。 	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
打込完了時（打込杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	〃	
掘削完了時（中掘杭）		・掘削長さ、杭の先端土質	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	〃		確認	〃	
施工完了時（中掘杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	〃	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・鋼管杭、H鋼杭 鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理について施工状況を確認する。 ・コンクリート杭 杭を切断した場合の補強方法、中詰補強の配筋等の杭頭処理状況を確認する。 	〃		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	

2-6-3-4: 場所打杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
掘削完了時	1-3-4-5	・掘削、長さ支持地盤	・杭の掘削完了時、掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて確認する。	〃		確認	一般：30%程度 /1構造物 重点：60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	
施工完了時		・基準高、偏心量、杭径	・基準高、偏心量、杭径が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・杭頭部コンクリートの品質及び仕上げ状況、帯鉄筋の径、本数、間隔及び定着長について確認する。	〃		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	

2-6-3-5: 矢板工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
打込時	1-3-3-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に板長を測定し、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 	段階確認書		確認	試験板+ 一般:1回/ 75本 重点:1回/ 50本	溶接部の試験方法は特記仕様書に示された方法による。
打込完了時		基準高、変位	<ul style="list-style-type: none"> ・基準高、変位が規格値以内であるか確認する。 	"		"	"	

2-6-3-6: 本土工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	2-6-3-6	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比しし確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

2-6-3-7: 燃料貯油槽工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	2-6-3-7	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比しし確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

第4節 沈砂池工

2-6-4-3: 既製杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
打込時	1-3-4-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較し確認する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を確認するとともに、支持力を算定し設計支持力と比較し確認する。 また、基準高、偏心量を確認する。 	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
打込完了時（打込杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	"		確認	"	
掘削完了時（中継杭）		・掘削長さ、杭の先端土質	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	"		確認	"	
施工完了時（中継杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	"		確認	"	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・鋼管杭、H鋼杭 鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理について施工状況を確認する。 ・コンクリート杭 杭を切断した場合の補強方法、中詰補強の配筋等の杭頭処理状況を確認する。 	"		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	

2-6-4-4: 場所打杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
掘削完了時	1-3-4-5	・掘削、長さ支持地盤	・杭の掘削完了時、掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて確認する。	〃		確認	一般：30%程度 /1構造物 重点：60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	
施工完了時		・基準高、偏心量、杭径	・基準高、偏心量、杭径が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・杭頭部コンクリートの品質及び仕上げ状況、帯鉄筋の径、本数、間隔及び定着長について確認する。	〃		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	

2-6-4-5: 矢板工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
打込時	1-3-3-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に板長を測定し、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 	段階確認書		確認	試験矢板+ 一般:1回/ 75本 重点:1回/ 50本	溶接部の試験方法は特記仕様書に示された方法による。
打込完了時		基準高、変位	<ul style="list-style-type: none"> ・基準高、変位が規格値以内であるか確認する。 	"		"	"	

2-6-4-6: コンクリート擁壁工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	2-6-3-6	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘削完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	"		確認	一般: 30%程度 / 1構造物 重点: 60%程度 / 1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

2-6-4-7: コンクリート床版工

2-6-4-8: ブロック床版工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	2-6-3-6	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

第5節 吐出水槽工
2-6-5-3: 既製杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
打込時	1-3-4-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較し確認する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を確認するとともに、支持力を算定し設計支持力と比較し確認する。 また、基準高、偏心量を確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
打込完了時（掘杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	〃	
掘削完了時（中掘杭）		・掘削長さ、杭の先端土質	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	〃		確認	〃	
施工完了時（中掘杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	〃	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・鋼管杭、H鋼杭 鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理について施工状況を確認する。 ・コンクリート杭 杭を切断した場合の補強方法、中詰補強の配筋等の杭頭処理状況を確認する。	〃		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	

2-6-5-4 : 場所打杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
掘削完了時	1-3-4-5	・掘削、長さ支持地盤	・杭の掘削完了時、掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	段階確認書		確認	試験杭 + 一般: 1回/10本 重点: 1回/5本	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて確認する。	〃		確認	一般: 30%程度 /1構造物 重点: 60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
施工完了時		・基準高、偏心量、杭径	・基準高、偏心量、杭径が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	試験杭 + 一般: 1回/10本 重点: 1回/5本	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・杭頭部コンクリートの品質及び仕上げ状況、帯鉄筋の径、本数、間隔及び定着長について確認する。	〃		確認	一般: 1回/10本 重点: 1回/5本	

2-6-5-5: 矢板工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
打込時	1-3-3-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に板長を測定し、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。	段階確認書		確認	試験回数+ 一般:1回/ 75本 重点:1回/ 50本	溶接部の試験方法は特記仕様書に示された方法による。
打込完了時		基準高、変位	・基準高、変位が規格値以内であるか確認する。	"		"	"	

2-6-5-6: 本土工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	2-6-3-6	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘削完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	"		確認	一般: 30%程度 / 1構造物 重点: 60%程度 / 1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

第7章 床止め・床固め

第3節 床止め工

2-7-3-4: 既製杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
打込時	1-3-4-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較し確認する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を確認するとともに、支持力を算定し設計支持力と比較し確認する。 また、基準高、偏心量を確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
打込完了時（打込杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	〃	
掘削完了時（中掘杭）		・掘削長さ、杭の先端土質	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	〃		確認	〃	
施工完了時（中掘杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	〃	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・鋼管杭、H鋼杭 鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理について施工状況を確認する。 ・コンクリート杭 杭を切断した場合の補強方法、中詰補強の配筋等の杭頭処理状況を確認する。	〃		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	

2-7-3-5: 矢板工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
打込時	1-3-3-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に板長を測定し、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 	段階確認書		確認	試験板+ 一般:1回/ 75本 重点:1回/ 50本	溶接部の試験方法は特記仕様書に示された方法による。
打込完了時		基準高、変位	<ul style="list-style-type: none"> ・基準高、変位が規格値以内であるか確認する。 	"		"	"	

2-7-3-6: 本土工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	2-7-3-6	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

2-7-3-7: 取付擁壁工

2-7-3-8: 水叩工

第4節 床固め工

2-7-4-4: 本堤工

2-7-4-5: 垂直壁工

2-7-4-6: 側壁工

2-7-4-7: 水叩工

第5節 山留擁壁工

2-7-5-3: コンクリート擁壁工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
土(岩)質の変化した時 床掘削完了時	2-7-5-3	<ul style="list-style-type: none"> ・土(岩)質、変化位置 ・支持地盤(直接基礎) ・使用材料、設計図書との対比 ・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温 ・設計図書との対比(不可視部分の出来形) 	<ul style="list-style-type: none"> ・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。 ・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。 ・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。 ・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。 ・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。 	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
鉄筋組立て完了時				"		確認	1回/1構造物	
コンクリート打設時				"		確認	一般: 30%程度 / 1構造物 重点: 60%程度 / 1構造物	
埋戻し前				"		確認	把握 一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	

第8章 河川維持

第7節 管理用通路補修

2-8-7-5: アスファルト舗装補修工

第9章 河川修繕

第6節 管理用通路修繕工

2-9-6-3: 舗装打換え工

2-9-6-4: オーバーレイ工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
舗設時	1-3-6-5	<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料、敷均し、締固め状況、天候、気温、舗設温度等 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか把握する。 ・下層、上層路盤（粒状路盤） 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、締固めが、行われているか把握する。 ・下層、上層路盤（セメント及び石灰安定処理） 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、天候、敷均し、締め固め状況について把握する 			把握	一般： 1回/1工事 重点： 1回/3000㎡	

第7節 現場塗装工

2-9-7-3: 付属物塗装工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
清掃・錆 落とし施 工時	2-9-7-3	・清掃・錆落 とし状況	・清掃、錆落とし状況を把握する。			把握	1回/1工事	
施工時		・使用材料、 天候、気温	・塗料缶の数量及び製造年月日(有効期限)、天候と気温 が施工に適しているかを把握する。			把握	1回/1工事	

第 3 編 海 岸 編

第3編 海岸編
 第1章 堤防・護岸
 第3節 護岸基礎工

3-1-3-3 : 捨石工

3-1-3-4 : 場所打ちコンクリート工

3-1-3-5 : 海岸コンクリートブロック工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
設置完了時	3-1-3-3	・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について設計図書と現地で対比し確認する。	段階確認書		確認	1回/1工事	

3-1-3-7 : 法留基礎工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
設置完了時	1-3-4-3	・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について埋戻し前に設計図書と現地で対比し確認する。	段階確認書		確認	1回/1工事	

3-1-3-8 : 矢板工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
打込時	1-3-3-4	・ 使用材料、長さ、溶接部の適否	・ 材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・ 打設前に板長を測定し、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較する。 ・ 継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。	段階確認書		確認	試験矢板+ 一般:1回/ 150枚 重点:1回/ 100枚	溶接部の試験方法は特記仕様書に示された方法による。
打込完了時		基準高、変位	・ 基準高、変位が規格値以内であるか確認する。	”		確認	試験矢板+ 一般:1回/ 150枚 重点:1回/ 100枚	

第4節 護岸工

3-1-4-3 : 捨石張工

3-1-4-4 : 石張り、石積み工

3-1-4-5 : 海岸コンクリートブロック工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
設置完了時	3-1-3-5	・ 設計図書との対比（不可視部分の出来形）	・ 不可視部分について設計図書と現地で対比し確認する。	段階確認書		確認	1回/1工事	

3-1-4-7 : 現場打擁壁工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	3-1-4-7	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘削完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

第5節 天端被覆工

3-1-5-2 : コンクリート被覆工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
舗設時	1-3-6-6	<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料、敷均し、締固め状況、天候、気温、舗設温度等 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか把握する。 ・下層、上層路盤（粒状路盤） 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、締固めが、行われているか把握する。 ・下層、上層路盤（セメント及び石灰安定処理） 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、敷均し、天候、締め固め状況について把握する ・コンクリート舗装 目地金物、鉄網の設置及び敷均し、締め固め状況について把握する。 			把握	一般： 1回/1工事 重点： 1回/3000㎡	

3-1-5-3 : アスファルト被覆工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
舗設時	1-3-6-5	<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料、敷均し、締固め状況、天候、気温、舗設温度等 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか把握する。 ・下層、上層路盤（粒状路盤） 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、締固めが、行われているか把握する。 ・下層、上層路盤（セメント及び石灰安定処理） 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、天候、敷均し、締め固め状況について把握する 			把握	一般： 1回/1工事 重点： 1回/3000㎡	

第6節 波返工

3-1-6-3 : 波返工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
鉄筋組立て完了時	3-1-6-3	・ 使用材料、設計図書との対比	・ 材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・ 鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて現地で確認する。	段階確認書		確認	一般：30%程度 /1構造物 重点：60%程度 /1構造物	函渠工に準ずる
コンクリート打設時		・ 品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・ コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	
埋戻し前		・ 設計図書との対比（不可視部分の出来形）	・ 不可視部分について、埋戻し前に設計図書と現地で対比し確認する。	段階確認書		確認	1回/1構造物	函渠工に準ずる

第7節 裏法被覆工

3-1-7-2 : 石張り・石積み工

3-1-7-3 : コンクリートブロック工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
設置完了時	1-3-5-3	・設計図書との対比（不可視部分の出来形）	・不可視部分について設計図書と現地で対比し確認する。	段階確認書		確認	1回/1工事	

3-1-7-5 : アスファルト被覆工

第10節 付帯道路工

3-1-10-3 : アスファルト舗装工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
舗設時	1-3-6-5	・使用材料、敷均し、締固め状況、天候、気温、舗設温度等	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか把握する。 ・下層、上層路盤（粒状路盤） 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、締固めが、行われているか把握する。 ・下層、上層路盤（セメント及び石灰安定処理） 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、天候、敷均し、締め固め状況について把握する			把握	一般： 1回/1工事 重点： 1回/3000㎡	

3-1-10-4 : コンクリート舗装工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
舗設時	1-3-6-6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用材料、敷均し、締め状況、天候、気温、舗設温度等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか把握する。 ・ 下層、上層路盤（粒状路盤） 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、締めが、行われているか把握する。 ・ 下層、上層路盤（セメント及び石灰安定処理） 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・ アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、敷均し、天候、締め固め状況について把握する ・ コンクリート舗装 目地金物、鉄網の設置及び敷均し、締め固め状況について把握する。 			把握	一般： 1回/1工事 重点： 1回/3000㎡	

3-1-10-5 : 薄層カラー舗装工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
舗設時	1-3-6-7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用材料、敷均し、締固め状況、天候、気温、舗設温度等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか把握する。 ・ 下層、上層路盤（粒状路盤） 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、締固めが、行われているか把握する。 ・ 下層、上層路盤（セメント及び石灰安定処理） 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・ アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、天候、敷均し、締め固め状況について把握する 			把握	一般： 1回/1工事 重点： 1回/3000㎡	

第2章 突堤・人工岬

第3節 突堤基礎工

3-2-3-4 : 捨石工

第4節 突堤本体工

3-2-4-2 : 捨石工 (被覆石工及び中詰め石工)

3-2-4-3 : 海岸コンクリートブロック工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
設置完了時	3-1-3-5	・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について設計図書と現地で対比し確認する。	段階確認書		確認	1回/1工事	

3-2-4-4 : 既製杭工

3-2-4-5 : 詰杭工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
打込時	1-3-4-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較し確認する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を確認するとともに、支持力を算定し設計支持力と比較し確認する。 また、基準高、偏心量を確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
打込完了時（打込杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	〃	
掘削完了時（中継杭）		・掘削長さ、杭の先端土質	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	〃		確認	〃	
施工完了時（中継杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	〃	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・鋼管杭、H鋼杭 鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理について施工状況を確認する。 ・コンクリート杭 杭を切断した場合の補強方法、中詰補強の配筋等の杭頭処理状況を確認する。	〃		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	

3-2-4-6 : 矢板工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
打込時	1-3-3-4	・ 使用材料、長さ、溶接部の適否 基準高、変位	・ 材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・ 打設前に板長を測定し、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較する。 ・ 継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・ 基準高、変位が規格値以内であるか確認する。	段階確認書		確認	試験板+ 一般:1回/ 75本 重点:1回/ 50本	溶接部の試験方法は特記仕様書に示された方法による。
打込完了時						”	”	

3-2-4-7 : 石枠工

3-2-4-8 : 場所打コンクリート工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
設置完了時	3-1-3-4	・ 設計図書との対比（不可視部分の出来形）	・ 不可視部分について設計図書と現地で対比し確認する。	段階確認書		確認	1回/1工事	

3-2-4-9 : ケーソン工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
鉄筋組立て完了時	3-2-4-9	・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて現地で確認する。	段階確認書		確認	一般：30%程度 /1構造物 重点：60%程度 /1構造物	函渠工に準ずる
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	
ケーソン曳航前		・設計図書との対比（不可視部分の出来形）	・不可視部分について、曳航前に設計図書と現地で対比し確認する。	段階確認書		確認	1回/1構造物	函渠工に準ずる

3-2-4-10 : セルラー工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
鉄筋組立て完了時	3- 2-4-9	・ 使用材料、設計図書との対比	・ 材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・ 鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて現地で確認する。	段階確認書		確認	一般：30%程度 /1構造物 重点：60%程度 /1構造物	函渠工に準ずる
コンクリート打設時		・ 品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・ コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	
ケーソン曳航前		・ 設計図書との対比（不可視部分の出来形）	・ 不可視部分について、曳航前に設計図書と現地で対比し確認する。	段階確認書		確認	1回/1構造物	函渠工に準ずる

第5節 根固め工

3-2-5-3 : 捨石工

3-2-5-4 : 根固めブロック

第6節 消波工

3-2-6-2 : 捨石工

3-2-6-3 : 消波ブロック工

第3章 海域堤防（人工リーフ、離岸堤、潜堤）

第3節 海域堤基礎工

3-3-3-3 : 捨石工

第4節 海域堤本体工

3-3-4-2 : 捨石工

3-3-4-3 : 海岸コンクリートブロック工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
設置完了時	3-1-3-3	・設計図書との対比（不可視部分の出来形）	・不可視部分について設計図書と現地に対比し確認する。	段階確認書		確認	1回/1工事	

3-3-4-4 : ケーソン工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
鉄筋組立て完了時	3-2-4-9	・ 使用材料、設計図書との対比	・ 材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・ 鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて現地で確認する。	段階確認書		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	函渠工に準ずる
コンクリート打設時		・ 品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・ コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
ケーソン曳航前		・ 設計図書との対比（不可視部分の出来形）	・ 不可視部分について、曳航前に設計図書と現地で対比し確認する。	段階確認書		確認	1回/1構造物	函渠工に準ずる

3-3-4-5 : セルラー工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
鉄筋組立て完了時	3-2-4-10	・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて現地で確認する。	段階確認書		確認	一般：30%程度 /1構造物 重点：60%程度 /1構造物	函渠工に準ずる
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	
ケーソン曳航前		・設計図書との対比（不可視部分の出来形）	・不可視部分について、曳航前に設計図書と現地で対比し確認する。	段階確認書		確認	1回/1構造物	函渠工に準ずる

3-3-4-6 : 場所打コンクリート工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
設置完了時	3-1-3-4	・設計図書との対比（不可視部分の出来形）	・不可視部分について設計図書と現地で対比し確認する。	段階確認書		確認	1回/1工事	

第 4 編 砂 防 編

第4編 砂防編
 第1章 砂防ダム
 法 線

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
法線設置 完了時		・法線設置状 況	・法線の設置状況について設計図書と対比し確認する。	段階確認書		確認	1回/1法線	

3節 工場製作工
 4-1-3-5: 工場塗装工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
清掃・錆 落とし施 工時	4-1-3-5	・清掃・錆落 とし状況	・清掃、錆落とし状況を把握する。			把握	1回/1工時	
施工時		・使用材料、 天候、気温	・塗料缶の数量及び製造年月日(有効期限)、天候と気温が施工に適しているかを把握する。			把握	1回/1工時	

第4節 コンクリートダム

- 4-1-4-3: コンクリートダム本体工
- 4-1-4-4: コンクリート副ダム工
- 4-1-4-5: コンクリート側壁工
- 4-1-4-6: 間詰工
- 4-1-4-7: 水叩工

第5節 鋼製ダム工

- 4-1-5-4: 鋼製ダム本体工 (コンクリートに関する部分)
- 4-1-5-5: 鋼製側壁工 (コンクリートに関する部分)
- 4-1-5-6: コンクリート側壁工
- 4-1-5-7: 間詰工
- 4-1-5-8: 水叩工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	4-1-4-2 4-1-4-3	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	"		確認	一般: 30%程度 / 1構造物 重点: 60%程度 / 1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

4-1-5-9： 現場塗装工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
清掃・錆 落とし施 工時	4-1-5-9	・清掃・錆 落とし状況	・清掃、錆落とし状況を把握する。			把握	1回/1工	
施工時		・使用材料、 天候、気温	・塗料缶の数量及び製造年月日(有効期限)、天候と気温 が施工に適しているかを把握する。			把握	1回/1工	

第6節 護床工・根固め工

4-1-6-4: 間詰工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	4-1-4-3	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床堀掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比しし確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

第8節 付帯道路工

4-1-8-3: アスファルト舗装工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
舗設時	1-3-6-5	<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料、敷均し、締固め状況、天候、気温、舗設温度等 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか把握する。 ・下層、上層路盤（粒状路盤） 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、締固めが、行われているか把握する。 ・下層、上層路盤（セメント及び石灰安定処理） 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、天候、敷均し、締め固め状況について把握する 			把握	一般： 1回/1工事 重点： 1回/3000m	

4-1-8-4: コンクリート舗装工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
舗設時	1-3-6-6	<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料、敷均し、締め固め状況、天候、気温、舗設温度等 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか把握する。 ・下層、上層路盤（粒状路盤） 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、締め固めが、行われているか把握する。 ・下層、上層路盤（セメント及び石灰安定処理） 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、敷均し、天候、締め固め状況について把握する ・コンクリート舗装 目地金物、鉄網の設置及び敷均し、締め固め状況について把握する。 			把握	一般： 1回/1工事 重点： 1回/3000㎡	

4-1-8-5: 薄層カラー舗装工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
舗設時	1-3-6-7	<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料、敷均し、締固め状況、天候、気温、舗設温度等 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか把握する。 ・下層、上層路盤（粒状路盤） 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、締固めが、行われているか把握する。 ・下層、上層路盤（セメント及び石灰安定処理） 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、天候、敷均し、締め固め状況について把握する 			把握	一般: 1回/1工事 重点: 1回/3000㎡	

第2章 流路

第3節 流路護岸工

4-2-3-3: 法留基礎工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
設置完了時	1-3-4-3	<ul style="list-style-type: none"> ・設計図書との対比（不可視部分の出来形） 	<ul style="list-style-type: none"> ・不可視部分について、埋戻し前に設計図書と現地で対比し確認する。 	段階確認書		確認	1回/1工事	

4-2-3-4: コンクリート擁壁工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	4-1-4-3	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時	1-3-3-3	・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

第4節 床固め工

4-2-4-3: 床固め本体工

4-2-4-4: 垂直壁工

4-2-4-5: 側壁工

4-2-4-6: 水叩工

4-2-4-7: 魚道工

第5節 根固め・水制工

4-2-5-4: 間詰工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	4-1-4-2 ~4	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比しし確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

第3章 斜面对策

第4節 擁壁工

4-3-4-3: 既製杭工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
打込時	1-3-4-4	<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較し確認する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を確認するとともに、支持力を算定し設計支持力と比較し確認する。また、基準高、偏心量を確認する。 	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
打込完了時（打込杭）		<ul style="list-style-type: none"> ・基準高、偏心量 	<ul style="list-style-type: none"> ・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。 	"		確認	"	
掘削完了時（中掘杭）		<ul style="list-style-type: none"> ・掘削長さ、杭の先端土質 	<ul style="list-style-type: none"> ・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。 	"		確認	"	
施工完了時（中掘杭）		<ul style="list-style-type: none"> ・基準高、偏心量 	<ul style="list-style-type: none"> ・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。 	"		確認	"	
杭頭処理完了時		<ul style="list-style-type: none"> ・杭頭処理状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・鋼管杭、H鋼杭 鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理について施工状況を確認する。 ・コンクリート杭 杭を切断した場合の補強方法、中詰補強の配筋等の杭頭処理状況を確認する。 	"		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	

4-3-4-4： 現場打擁壁工

4-3-4-8： 小型擁壁工

第7節 地下水遮断工

4-3-7-3： 現場打擁壁工

4-3-7-4： 小型擁壁工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	4-1-4-3	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。	"		把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

4-3-7-5: 固結工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
施工時	1-3-7-9	・使用材料、深度	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・施工管理記録により杭の打込長さ確認する。	段階確認書		確認	一般： 1回/200本 重点： 1回/100本	
施工完了時		・基準高、施工位置、杭径	・杭の基準高、設置間隔、杭径を確認する。	"		"	"	

4-3-7-6: 矢板工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
打込時	1-3-3-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に板長を測定し、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。	段階確認書		確認	試験矢板+ 一般：1回/ 75本 重点：1回/ 50本	溶接部の試験方法は特記仕様書に示された方法による。
打込完了時		基準高、変位	・基準高、変位が規格値以内であるか確認する。	"		"	"	

第8節 抑止杭・アンカー工

4-3-8-2: 既製杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
打込時	1-3-4-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較し確認する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を確認するとともに、支持力を算定し設計支持力と比較し確認する。 また、基準高、偏心量を確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
打込完了時（打込杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	"		確認	"	
掘削完了時（中掘杭）		・掘削長さ、杭の先端土質	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	"		確認	"	
施工完了時（中掘杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	"		確認	"	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・鋼管杭、H鋼杭 鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理について施工状況を確認する。 ・コンクリート杭 杭を切断した場合の補強方法、中詰補強の配筋等の杭頭処理状況を確認する。	"		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	

4-3-8-3: 場所打杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
掘削完了時	1-3-4-5	・掘削、長さ支持地盤	・杭の掘削完了時、掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて確認する。	”		確認	一般：30%程度 /1構造物 重点：60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。	”		把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	
施工完了時		・基準高、偏心量、杭径	・基準高、偏心量、杭径が規格値以内であるか確認する。	”		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・杭頭部コンクリートの品質及び仕上げ状況、帯鉄筋の径、本数、間隔及び定着長について確認する。	”		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	

4-3-8-4: シャフト (深礎工)

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	1-3-4-6	・土(岩)質変化位置	監督職員は土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	
掘削完了時		・長さ、支持地盤	・杭の掘削完了時、掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較して確認する。 ・杭の長さを現地で確認する。	"		確認	一般:1回/3本 重点:全数	
鉄筋組立完了時		・使用材料、設計図書との対比	・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法(継手長結束状況)及びかぶりについて現地で確認する。 ・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	"		確認	1回/1本	
施工完了時		・基準高、偏心量、径	・基準高、偏心量、径が規格値以内であるか確認する。	"		確認	一般:1回/3本 重点:全数	
グラウト注入時		・使用材料、使用量	・注入モルタルの配合及び記録計等により使用量を確認する。 ・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	"		確認	一般:1回/3本 重点:全数	契約書第18条に関わる条件変更の確認

4-3-8-5: 合成杭工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
掘削完了時	1-3-4-4	・掘削、長さ 支持地盤	・杭の掘削完了時、掘削土により地層・地質及び杭先端 支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
鉄筋組立 て完了時		・使用材料、 設計図書との 対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用し ているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束 状況）及びかぶりについて確認する。	”		確認	一般：30%程度 /1構造物 重点：60%程度 /1構造物	
コンクリート打 設時		・品質規格、 運搬時間、打 設順序、天候 気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設 時の天候及び気温等について把握する。	”		把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	
施工完了 時		・基準高、偏 心量、杭径	・基準高、偏心量、杭径が規格値以内であるか確認す る。	”		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
杭頭処理 完了時		・杭頭処理状 況	・杭頭部コンクリートの品質及び仕上げ状況、帯鉄筋の 径、本数、間隔及び定着長について確認する。	”		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	

第 6 編 道 路 編

第6編 道路編 第1章 道路改良

第5節 擁壁工

6-1-5-3 : 既製杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
打込時	1-3-4-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較し確認する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を確認するとともに、支持力を算定し設計支持力と比較し確認する。また、基準高、偏心量を確認する。 	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
打込完了時（打込杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	〃	
掘削完了時（中掘杭）		・掘削長さ、杭の先端土質	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	〃		確認	〃	
施工完了時（中掘杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	〃	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・鋼管杭、H鋼杭 鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理について施工状況を確認する。 ・コンクリート杭 杭を切断した場合の補強方法、中詰補強の配筋等の杭頭処理状況を確認する。 	〃		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	

6-1-5-4 : 場所打杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
掘削完了時	1-3-4-5	・掘削、長さ支持地盤	・杭の掘削完了時、掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて確認する。	〃		確認	一般：30%程度 /1構造物 重点：60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	
施工完了時		・基準高、偏心量、杭径	・基準高、偏心量、杭径が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・杭頭部コンクリートの品質及び仕上げ状況、帯鉄筋の径、本数、間隔及び定着長について確認する。	〃		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	

6-1-5-5 : 現場打擁壁工

6-1-5-9 : 小型擁壁工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩) 質の変化 した時		・土(岩)質 、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩) 質の変化毎	契約書第18条 に関わる条件変更 の確認
床掘掘削 完了時		・支持地盤 (直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立 て完了時		・使用材料、 設計図書との 対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比しし確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打 設時		・品質規格、 運搬時間、打 設順序、天候 、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書と の対比(不可 視部分の出来 形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

第6節 カルバート工
6-1-6-4 : 既製杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
打込時	1-3-4-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較し確認する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を確認するとともに、支持力を算定し設計支持力と比較し確認する。 また、基準高、偏心量を確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
打込完了時（打込杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	”		確認	”	
掘削完了時（中継杭）		・掘削長さ、杭の先端土質	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	”		確認	”	
施工完了時（中継杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	”		確認	”	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・鋼管杭、H鋼杭 鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理について施工状況を確認する。 ・コンクリート杭 杭を切断した場合の補強方法、中詰補強の配筋等の杭頭処理状況を確認する。	”		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	

6-1-6-5 : 場所打杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
掘削完了時	1-3-4-5	・掘削、長さ支持地盤	・杭の掘削完了時、掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて確認する。	"		確認	一般：30%程度 /1構造物 重点：60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	
施工完了時		・基準高、偏心量、杭径	・基準高、偏心量、杭径が規格値以内であるか確認する。	"		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・杭頭部コンクリートの品質及び仕上げ状況、帯鉄筋の径、本数、間隔及び定着長について確認する。	"		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	

6-1-6-6 : 現場打カルバート工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	6-1-6-6	・土(岩)質、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認。
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	"		確認	一般: 30%程度 / 1構造物 重点: 60%程度 / 1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般: 1回/1構造物 重点: 1回/1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	"		確認	1回/1構造物	

第9節 遮音壁工

6-1-9-4 : 既製杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
打込時	1-3-4-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較し確認する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を確認するとともに、支持力を算定し設計支持力と比較し確認する。 また、基準高、偏心量を確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
打込完了時（打込杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	〃	
掘削完了時（中掘杭）		・掘削長さ、杭の先端土質	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	〃		確認	〃	
施工完了時（中掘杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	〃	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・鋼管杭、H鋼杭 鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理について施工状況を確認する。 ・コンクリート杭 杭を切断した場合の補強方法、中詰補強の配筋等の杭頭処理状況を確認する。	〃		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	

第2章 舗装

第3節 舗装工

6-2-3-4 : 橋面防水工

6-2-3-5 : アスファルト舗装工

6-2-3-6 : 半たわみ性舗装工

6-2-3-7 : 排水性舗装工

6-2-3-8 : グースアスファルト舗装工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
舗設時	1-3-6-5	<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料、敷均し、締固め状況、天候、気温、舗設温度等 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか把握する。 ・下層、上層路盤（粒状路盤） 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、締固めが、行われているか把握する。 ・下層、上層路盤（セメント及び石灰安定処理） 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、天候、敷均し、締め固め状況について把握する 			把握	一般： 1回/1工事 重点： 1回/3000㎡	

6-2-3-9 : コンクリート舗装工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
舗設時	1-3-6-6	<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料、敷均し、締固め状況、天候、気温、舗設温度等 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか把握する。 ・下層、上層路盤（粒状路盤） 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、締固めが、行われているか把握する。 ・下層、上層路盤（セメント及び石灰安定処理） 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、敷均し、天候、締め固め状況について把握する ・コンクリート舗装 目地金物、鉄網の設置及び敷均し、締め固め状況について把握する。 			把握	一般： 1回/1工事 重点： 1回/3000㎡	

6-2-3-10 : 薄層カラー舗装工

6-2-3-11 : ブロック舗装工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
舗設時	1-3-6-5	<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料、敷均し、締固め状況、天候、気温、舗設温度等 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか把握する。 ・下層、上層路盤（粒状路盤） 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、締固めが、行われているか把握する。 ・下層、上層路盤（セメント及び石灰安定処理） 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、天候、敷均し、締め固め状況について把握する 			把握	一般： 1回/1工事 重点： 1回/3000㎡	

第3章 橋梁下部

第4節 橋台工

6-3-4-3 : 既製杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
打込時	1-3-4-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較し確認する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を確認するとともに、支持力を算定し設計支持力と比較し確認する。 また、基準高、偏心量を確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
打込完了時（打込杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	〃	
掘削完了時（中杭）		・掘削長さ、杭の先端土質	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	〃		確認	〃	
施工完了時（中杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	〃	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・鋼管杭、H鋼杭 鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理について施工状況を確認する。 ・コンクリート杭 杭を切断した場合の補強方法、中詰補強の配筋等の杭頭処理状況を確認する。	〃		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	

6-3-4-4 : 場所打杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
掘削完了時	1-3-4-5	・掘削、長さ支持地盤	・杭の掘削完了時、掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて確認する。	"		確認	一般：30%程度 /1構造物 重点：60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	
施工完了時		・基準高、偏心量、杭径	・基準高、偏心量、杭径が規格値以内であるか確認する。	"		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・杭頭部コンクリートの品質及び仕上げ状況、帯鉄筋の径、本数、間隔及び定着長について確認する。	"		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	

6-3-4-5 : 深礎工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	1-3-4-6	・土(岩)質変化位置	監督職員は土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	
掘削完了時		・長さ、支持地盤	・杭の掘削完了時、掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較して確認する。 ・杭の長さを現地で確認する。	〃		確認	一般:1回/3本 重点:全数	
鉄筋組立完了時		・使用材料、設計図書との対比	・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法(継手長結束状況)及びかぶりについて現地で確認する。 ・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	〃		確認	1回/1本	
施工完了時		・基準高、偏心量、径	・基準高、偏心量、径が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	一般:1回/3本 重点:全数	
グラウト注入時		・使用材料、使用量	・注入モルタルの配合及び記録計等により使用量を確認する。 ・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	〃		確認	一般:1回/3本 重点:全数	契約書第18条に関わる条件変更の確認

6-3-4-6 : オープンケーソン基礎工

6-3-4-7 : ニューマチックケーソン基礎工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
鉄杮据え付け完了時	1-3-4-7 1-3-4-8	・使用材料、 施工位置	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか。また、施工位置を確認する。	段階確認書		確認	1回/1構造物	契約書第18条に関わる条件変更の確認
本体設置前(オープンケーソン)		・支持層	・安全な初期の沈設できるような地盤であるかを確認する。	〃		確認	1回/1構造物	
掘削完了時(ニューマチックケーソン)		・支持層	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と確認する。	〃		確認	1回/1構造物	
土(岩)質の変化した時		・土(岩)質 変化位置	・監督職員は土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	〃		確認	1回/土(岩)質 の変化毎	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、 設計図書との 対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて現地で確認する。	〃		確認	1回/1ロット	
コンクリート打設時		・品質規格、 運搬時間、打 設順序、天候 気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	

6-3-4-8 : 躯体工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	6-3-4-8	・土(岩)質、変化位置	・監督職員は、土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温等	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般:1回/ 1構造物 重点:1回/ 1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図と現地で対比する。	段階確認書		確認	1回/1構造物	
沓座の位置決定時		・沓座の位置	・前後の下部工沓座との相互関係及び沓座の高さ等について確認する。	"		確認	1回/1構造物	

第5節 RC橋脚工
6-3-5-3 : 既製杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
打込時	1-3-4-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較し確認する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を確認するとともに、支持力を算定し設計支持力と比較し確認する。 また、基準高、偏心量を確認する。 	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
打込完了時（打込杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	〃	
掘削完了時（中掘杭）		・掘削長さ、杭の先端土質	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	〃		確認	〃	
施工完了時（中掘杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	〃	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・鋼管杭、H鋼杭 鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理について施工状況を確認する。 ・コンクリート杭 杭を切断した場合の補強方法、中詰補強の配筋等の杭頭処理状況を確認する。 	〃		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	

6-3-5-4 : 場所打杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
掘削完了時	1-3-4-5	・掘削、長さ支持地盤	・杭の掘削完了時、掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて確認する。	〃		確認	一般：30%程度 /1構造物 重点：60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	
施工完了時		・基準高、偏心量、杭径	・基準高、偏心量、杭径が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・杭頭部コンクリートの品質及び仕上げ状況、帯鉄筋の径、本数、間隔及び定着長について確認する。	〃		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	

6-3-5-5 : 深礎工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	1-3-4-6	・土(岩)質変化位置	監督職員は土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	
掘削完了時		・長さ、支持地盤	・杭の掘削完了時、掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較して確認する。 ・杭の長さを現地で確認する。	〃		確認	一般:1回/3本 重点:全数	
鉄筋組立完了時		・使用材料、設計図書との対比	・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法(継手長結束状況)及びかぶりについて現地で確認する。 ・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	〃		確認	1回/1本	
施工完了時		・基準高、偏心量、径	・基準高、偏心量、径が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	一般:1回/3本 重点:全数	
グラウト注入時		・使用材料、使用量	・注入モルタルの配合及び記録計等により使用量を確認する。 ・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	〃		確認	一般:1回/3本 重点:全数	

6-3-5-6 : オープンケーソン基礎工

6-3-5-7 : ニューマチックケーソン基礎工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
鉄杓据え付け完了時	1-3-4-7 1-3-4-8	・使用材料、 施工位置	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか。また、施工位置を確認する。	段階確認書		確認	1回/1構造物	契約書第18条に関わる条件変更の確認
本体設置前(オープンケーソン)		・支持層	・安全な初期の沈設できるような地盤であるかを確認する。	"		確認	1回/1構造物	
掘削完了時(ニューマチックケーソン)		・支持層	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と確認する。	"		確認	1回/1構造物	
土(岩)質の変化した時		・土(岩)質 変化位置	・監督職員は土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	"		確認	1回/土(岩)質 の変化毎	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、 設計図書との 対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて現地で確認する。	"		確認	1回/1ロット	
コンクリート打設時		・品質規格、 運搬時間、打 設順序、天候 気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	

6-3-5-8 : 鋼管井筒基礎工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
打込時	1-3-4-9	・ 使用材料、長さ、溶接部の適否、支持力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・ 打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較し確認する。 ・ 継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・ 貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を把握するとともに、支持力を算定し設計支持力と比較する。 ・ 工法を指定した場合は、周辺部への影響、杭の状況施工性等から、工法の適否について確認する。 	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	溶接部の試験方法は特記仕様書に示された方法による。
打込完了時		・ 基準高、偏心量	・ 基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	"		"	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
杭頭処理完了時		・ 杭頭処理状況	・ 鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理について施工状況を確認する。	"		"	一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	

6-3-5-9 : RC躯体工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	6-3-4-8	・土(岩)質、変化位置	・監督職員は、土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温等	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般:1回/ 1構造物 重点:1回/ 1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図と現地で対比する。	段階確認書		確認	1回/1構造物	
沓座の位置決定時		・沓座の位置	・前後の下部工沓座との相互関係及び沓座の高さ等について確認する。	"		確認	1回/1構造物	

第6節 鋼製橋脚工

6-3-6-3 : 既製杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
打込時	1-3-4-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較し確認する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を確認するとともに、支持力を算定し設計支持力と比較し確認する。また、基準高、偏心量を確認する。 	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	
打込完了時（打込時）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	"		確認	"	
掘削完了時（中杭）		・掘削長さ、杭の先端土質	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	"		確認	"	
施工完了時（中杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	"		確認	"	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・鋼管杭、H鋼杭 鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理について施工状況を確認する。 ・コンクリート杭 杭を切断した場合の補強方法、中詰補強の配筋等の杭頭処理状況を確認する。 	"		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/5本	

6-3-6-4 : 場所打杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
掘削完了時	1-3-4-5	・掘削、長さ支持地盤	・杭の掘削完了時、掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて確認する。	"		確認	一般：30%程度 /1構造物 重点：60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	
施工完了時		・基準高、偏心量、杭径	・基準高、偏心量、杭径が規格値以内であるか確認する。	"		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・杭頭部コンクリートの品質及び仕上げ状況、帯鉄筋の径、本数、間隔及び定着長について確認する。	"		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	

6-3-6-5 : 深礎工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩) 質の変化 した時	1-3-4-6	・土(岩)質 変化位置	監督職員は土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質 の変化毎	
掘削完了 時		・長さ、支持 地盤	・杭の掘削完了時、掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較して確認する。 ・杭の長さを現地で確認する。	"		確認	一般:1回/3本 重点:全数	
鉄筋組立 完了時		・使用材料、 設計図書との 対比	・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法(継手長結束状況)及びかぶりについて現地で確認する。 ・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	"		確認	1回/1本	
施工完了 時		・基準高、偏 心量、径	・基準高、偏心量、径が規格値以内であるか確認する。	"		確認	一般:1回/3本 重点:全数	
グラウト 注入時		・使用材料、 使用量	・注入モルタルの配合及び記録計等により使用量を確認する。 ・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	"		確認	一般:1回/3本 重点:全数	

6-3-6-6 : オープンケーソン基礎工

6-3-6-7 : ニューマチックケーソン基礎工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
鉄骨据え付け完了時	1-3-4-7 1-3-4-8	・使用材料、 施工位置	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか。また、施工位置を確認する。	段階確認書		確認	1回/1構造物	契約書第18条に関わる条件変更の確認
本体設置前(オープンケーソン)		・支持層	・安全な初期の沈設できるような地盤であるかを確認する。	"		確認	1回/1構造物	
掘削完了時(ニューマチックケーソン)		・支持層	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と確認する。	"		確認	1回/1構造物	
土(岩)質の変化した時		・土(岩)質 変化位置	・監督職員は土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	"		確認	1回/土(岩)質 の変化毎	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、 設計図書との 対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて現地で確認する。	"		確認	1回/1ロット	
コンクリート打設時		・品質規格、 運搬時間、打 設順序、天候 気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。			把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	

6-3-6-8 : 鋼管井筒基礎工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
打込時	1-3-4-9	・ 使用材料、長さ、溶接部の適否、支持力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・ 打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較し確認する。 ・ 継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・ 貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を把握するとともに、支持力を算定し設計支持力と比較する。 ・ 工法を指定した場合は、周辺部への影響、杭の状況施工性等から、工法の適否について確認する。 	段階確認書		確認	試験杭+ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	溶接部の試験方法は特記仕様書に示された方法による。
打込完了時		・ 基準高、偏心量	・ 基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	"		"	試験杭+ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
杭頭処理完了時		・ 杭頭処理状況	・ 鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理について施工状況を確認する。	"		"	一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	

6-3-6-9 : 橋脚フーチング工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	2-1-6-3	・土(岩)質、変化位置	・監督職員は、土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘削完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	"		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温等	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般:1回/ 1構造物 重点:1回/ 1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図と現地に対比する。	段階確認書		確認	1回/1構造物	
沓座の位置決定時	・沓座の位置	・前後の下部工沓座との相互関係及び沓座の高さ等について確認する。	"		確認	1回/1構造物		

6-3-6-11 : 現場継手工（接触面を塗装する場合）

6-3-6-12 : 現場塗装工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
清掃・錆 落とし施 工時	6-4-4-10 6-4-5-3	・清掃・錆 落とし状況	・清掃、錆落とし状況を把握する。			把握	1回/1工	
施工時		・使用材料、 天候、気温	・塗料缶の数量及び製造年月日(有効期限)、天候と気温 が施工に適しているかを把握する。			把握	1回/1工	

第7節 護岸工

6-3-7-4 : 法留基礎工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
設置完了 時		・設計図書と の対比(可視部 分の出来形)	・不可視部分について埋戻し前に設計図書と現地で対比 する。	段階確認書		確認	1回/1工	

第4章 鋼橋上部

第3節 工場製作工

6-4-3-3 : 桁製作工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
仮組立完了時（仮組立てが省略となる場合を除く）	6-4-3-3	・キャンパー、寸法等	・キャンパー、寸法等を確認する。	段階確認書		確認	重点:1回/ 1構造物	

第5節 橋梁現場塗装工

6-4-5-3 : 現場塗装工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
清掃・錆落とし施工時	6-4-5-3	・清掃・錆落とし状況	・清掃、錆落とし状況を把握する。			把握	1回/1工	
施工時		・使用材料、天候、気温	・塗料缶の数量及び製造年月日(有効期限)、天候と気温が施工に適しているかを把握する。			把握	1回/1工	

第6節 床版工

6-4-6-2 : 床版工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
鉄筋組立 て完了時	6-4-6-2	・使用材料、 設計図書との 対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用して いるか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継ぎ手方法(継ぎ手長 結束状況)及びかぶりについて現地で確認する。	段階確認書		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打 設時		・品質規格、 運搬時間、打 設順序、天候 気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等につ いて把握する。			把握	一般:1回/ 1構造物 重点:1回/ 1ロット	

第9節 歩道橋本体工
6-4-9-3 : 既製杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
打込時	1-3-4-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較し確認する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験（JIS Z 2343）、放射線透過試験（JIS Z 3104）又は超音波探傷試験（JIS Z 3060）により確認する。 ・貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を確認するとともに、支持力を算定し設計支持力と比較し確認する。 また、基準高、偏心量を確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
打込完了時（杭杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	〃	
掘削完了時（中杭）		・掘削長さ、杭の先端土質	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	〃		確認	〃	
施工完了時（中杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	〃		確認	〃	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・鋼管杭、H鋼杭 鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理について施工状況を確認する。 ・コンクリート杭 杭を切断した場合の補強方法、中詰補強の配筋等の杭頭処理状況を確認する。	〃		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	

6-4-9-4 : 場所打杭工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
掘削完了時	1-3-4-5	・掘削、長さ支持地盤	・杭の掘削完了時、掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	段階確認書		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて確認する。	”		確認	一般：30%程度 /1構造物 重点：60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。	”		把握	一般： 1回/1構造物 重点： 1回/1ロット	
施工完了時		・基準高、偏心量、杭径	・基準高、偏心量、杭径が規格値以内であるか確認する。	”		確認	試験杭＋ 一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・杭頭部コンクリートの品質及び仕上げ状況、帯鉄筋の径、本数、間隔及び定着長について確認する。	”		確認	一般： 1回/10本 重点： 1回/ 5本	

6-4-9-5 : 橋脚フーチング工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	6-3-6-9	・土(岩)質、変化位置	・監督職員は、土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の確認
床掘削完了時		・支持地盤(直接基礎)	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ(基準高)を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等(試験費用は別途計上)の試験結果で確認する。	〃		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	〃		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温等	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般:1回/ 1構造物 重点:1回/ 1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比(不可視部分の出来形)	・不可視部分について、埋戻前に設計図と現地で対比する。	段階確認書		確認	1回/1構造物	
沓座の位置決定時	・沓座の位置	・前後の下部工沓座との相互関係及び沓座の高さ等について確認する。	〃		確認	1回/1構造物		

6-4-9-7 : 現場塗装工 (歩道橋)

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
清掃・錆 落とし施 工時	6-4-5-3	・清掃・錆落 とし状況	・清掃、錆落とし状況を把握する。			把握	1回/1工	
施工時		・使用材料、 天候、気温	・塗料缶の数量及び製造年月日(有効期限)、天候と気温 が施工に適しているかを把握する。			把握	1回/1工	

第5章 コンクリート橋上部工

第3節 工場製作工

6-5-3-2 : プレベーム用桁製作工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
プレストレス導入完了時、横締め作業完了時	6-4-3-3	・設計図書との対比	・プレストレス導入時に設計図書と対比し、作業状況を確認する。	段階確認書		確認	一般：5%程度 /総ケーブル数 重点：10%程度 /総ケーブル数	
プレストレス導入完了時、縦締め作業完了時		・設計図書との対比	・プレストレス導入時に設計図書と対比し、作業状況を確認する。	〃		確認	一般：10%程度 /総ケーブル数 重点：20%程度 /総ケーブル数	
PC鋼線鉄筋組立て完了時 (工場製作を除く)		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継ぎ手方法(継ぎ手長結束状況)及びかぶりについて確認する。	〃		確認	一般：30%程度 /1構造物 重点：60%程度 /1構造物	

第4節 コンクリート主桁製作工

6-5-4-3: ポストテンションT (I) 桁製作工

6-5-4-5: プレキャストブロック桁製作工

6-5-4-6: プレビーム桁製作工

6-5-4-7: PCホロースラブ製作工

6-5-4-8: RC場所打ホロースラブ製作工

6-5-4-9: PC版桁製作工

6-5-4-10: PC箱桁製作工

6-5-4-11: PC片持箱桁製作工

6-5-4-12: PC押出し箱桁製作工

第6節 床版・横組工

6-5-6-2: 床版・横組工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
コンクリート打設時	6-5-4-3 ~7	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般:1回/ 1構造物 重点:1回/ 1ロット	
プレストレス導入完了時、機械締め作業完了時		・設計図書との対比	・プレストレス導入時に設計図書と対比し、作業状況を確認する。	段階確認書		確認	一般:5%程度 /総ケーブル数 重点:10%程度 /総ケーブル数	
プレストレス導入完了時、機械締め作業完了時		・設計図書との対比	・プレストレス導入時に設計図書と対比し、作業状況を確認する。	"		確認	一般:10%程度 /総ケーブル数 重点:20%程度 /総ケーブル数	
PC鋼線・鉄筋組立完了時(工場製作を除く)		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継ぎ手方法(継ぎ手長結束状況)及びかぶりについて確認する。	"		確認	一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	

第8節 橋梁付属物工

6-5-8-9 : 現場塗装

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
清掃・錆落とし施工時	6-4-5-3	・清掃・錆落とし状況	・清掃、錆落とし状況を把握する。			把握	1回/1工	
施工時		・使用材料、天候、気温	・塗料缶の数量及び製造年月日(有効期限)、天候と気温が施工に適しているかを把握する。			把握	1回/1工	

第6章 トンネル (NATM)

6-6-3-1 : トンネル全般

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
施工時 (支保工変更毎)		・施工状況	・監督職員は、設計図書及び施工計画書と現地を対比し、掘削方法、支保工施工方法(吹付、ロックボルト、鋼製支保工)、覆工、インパート等の全般について施工状況を把握する。			把握	1回/支保工変更毎	

6-6-3-2 : 掘削工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	6-6-3-2	土(岩)質、の変化位置	監督職員は、土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の

第4節 支保工

6-6-4-3 : 吹付工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
支保工完了時(支保工変更時)	6-6-4-3	・吹き付けコンクリート厚	・金網の重ね合わせ寸法、吹き付けコンクリートの厚さを確認する。	段階確認書		確認	1回/支保工変更毎	

6-6-4-4 : ロックボルト工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
支保工完了時(支保工変更毎)	6-6-4-4	・ロックボルト打ち込み本数及び長さ	・ロックボルト打ち込み本数及び長さを確認する。	段階確認書		確認	1回/支保工変更毎	

第5節 覆 工

6-6-5-3 : 覆工コンクリート

6-6-5-4 : 側壁コンクリート

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
施工時(構造の変化時)	6-6-5-3 ~4	・設計図書との対比	・厚さなどの寸法を設計図書と対比する。	段階確認書		確認	1回/構造の変化毎	

第6節 インパート工

6-6-6-4 : インパート本体工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
鉄筋組立て完了時	6-6-6-4	・設計図書との対比	・鉄筋組立完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について設計図書と対比し確認する。	段階確認書		確認	1回/構造の変化毎	

第7章 トンネル(矢板)

6-7-3-1 : トンネル全般

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
施工時(支保工変更毎)		・施工状況	・設計図書及び施工計画書と現地を対比し、掘削方法、支保工施工、覆工、インパート等の全搬について施工状況を把握する。			把握	1回/支保工変更毎	

第3節 トンネル掘削工

6-7-3-2 : 掘削工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩)質の変化した時	6-6-3-2	土(岩)質、の変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩)質の変化毎	契約書第18条に関わる条件変更の

第5節 覆工

6-7-5-3 : 覆工コンクリート

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
施工時 (構造の 変化時)	6-7-5-3	・設計図書と の対比	・厚さなどの寸法を設計図書と対比する。	段階確認書		確認	1回/構造 の変化毎	

第8章 共同溝

第3節 工場製作工

6-8-3-3: 工場塗装工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
清掃・錆 落とし施 工時	1-3-3-15	・清掃・錆 落とし状況	・清掃、錆落とし状況を把握する。			把握	1回/1工	
施工時		・使用材料、 天候、気温	・塗料缶の数量及び製造年月日(有効期限)、天候と気温 が施工に適しているかを把握する。			把握	1回/1工	

第4節 開削土工

6-8-4-2: 掘 削 工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
土(岩) 質の変化 した時	6-8-4-2	・土(岩)質 、変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書		確認	1回/土(岩) 質の変化毎	契約書第18条に 関わる条件変更の 確認

第5節 現場打ち構築工
6-8-5-2: 現場打ち躯体工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
床掘削完了時	6-8-5-2	・支持地盤（直接基礎）	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ（基準高）を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等（試験費用は別途計上）の試験結果で確認する。	段階確認書		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶりについて設計図書と比較し確認する。	〃		確認	一般：30%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般：1回/ 1構造物 重点：1回/ 1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比（不可視部分の出来形）	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	段階確認書		確認	1回/1構造物	

第6節 プレキャスト構築工

6-8-6-3: 縦締工

6-8-6-4: 横締工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
コンクリート打設時 プレストレス導入完了時、縦締め作業完了時 プレストレス導入完了時、縦締め作業完了時 PC鋼線・鉄筋組立完了時(工場製作を除く)	6-5-4-3	<ul style="list-style-type: none"> 品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温 設計図書との対比 設計図書との対比 使用材料、設計図書との対比 	<ul style="list-style-type: none"> 品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。 プレストレス導入時に設計図書と対比し、作業状況を確認する。 プレストレス導入時に設計図書と対比し、作業状況を確認する。 材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継ぎ手方法(継ぎ手長結束状況)及びかぶりについて確認する。 	段階確認書 " "		把握 確認 確認 確認	一般:1回/ 1構造物 重点:1回/ 1ロット 一般:5%程度 /総ケ-ブル数 重点:10%程度 /総ケ-ブル数 一般:10%程度 /総ケ-ブル数 重点:20%程度 /総ケ-ブル数 一般:30%程度 /1構造物 重点:60%程度 /1構造物	

第9章 電線共同溝

第3節 電線共同溝

6-9-3-4: 現場打ちボックス工

第10章 キャブ

第3節 キャブ工

6-10-3-2: 現場打ちキャブ工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
床掘削完了時	6-8-5-2	・支持地盤（直接基礎）	・監督職員は床掘完了時に、掘削深さ（基準高）を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等（試験費用は別途計上）の試験結果で確認する。	段階確認書		確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を使用しているか確認する。 ・鉄筋組立て完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶりについて設計図書と比較し確認する。	〃		確認	一般:30%程度 /1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。			把握	一般:1回/ 1構造物 重点:1回/ 1ロット	
埋戻し前		・設計図書との対比（不可視部分の出来形）	・不可視部分について、埋戻前に設計図書と現地で対比し確認する。	段階確認書		確認	1回/1構造物	

第1.1章 道路維持

第4節 舗装維持工

6-11-4-4: アスファルト舗装補修工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
舗設時	6-11-4-4	<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料、敷均し、縮固め状況、天候、気温、舗設温度等 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか把握する。 ・下層、上層路盤（粒状路盤） 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、縮固めが、行われているか把握する。 ・下層、上層路盤（セメント及び石灰安定処理） 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、天候、敷均し、縮め固め状況について把握する 			把握	一般： 1回/1工事 重点： 1回/3000㎡	

第6節 構造物補修工

6-11-6-8: 部材塗装工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
清掃・錆落とし施工時	6-11-6-8	・清掃・錆落とし状況 ・使用材料、天候、気温	・清掃、錆落とし状況を把握する。 ・塗料缶の数量及び製造年月日(有効期限)、天候と気温が施工に適しているかを把握する。			把握	1回/1工	
施工時						把握	1回/1工	

第8節 植栽維持工

6-11-8-3: 樹木・芝管理工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
施 工	6-11-8-3	・使用材料、施工状況	・肥料の種類、施肥の方法について把握する。			把握	1回/1工	

第12章 雪寒

第3節 除雪工

6-12-3-5: 凍結防止工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
施 工	6-12-3-5	・使用材料、施工状況	・凍結防止剤の種類及び散布方法について把握する。			把握	1回/1工	

第13章 道路修繕

第3節 工場製作工

6-13-3-4: RC橋脚巻立て鋼板製作工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
清掃・錆落とし施工時	6-13-3-4	・清掃・錆落とし状況	・清掃、錆落とし状況を把握する。			把握	1回/1工事	
施工時		・使用材料、天候、気温	・塗料缶の数量及び製造年月日(有効期限)、天候と気温が施工に適しているかを把握する。			把握	1回/1工事	

第4節 舗装修繕工

6-13-4-4: 舗装打換え工

6-13-4-5: オーバーレイ工

施工段階	仕様書 との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
舗設時	6-13-4-5	・使用材料、敷均し、締め状況、天候、気温、舗設温度等	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか把握する。 ・下層、上層路盤(粒状路盤) 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、締めめが、行われているか把握する。 ・下層、上層路盤(セメント及び石灰安定処理) 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、天候、敷均し、締め固め状況について把握する 			把握	一般: 1回/1工事 重点: 1回/3000㎡	

6-13-4-6： 路上再生路盤工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
舗設時	6-13-4-6	<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料、敷均し、締固め状況、天候気温、舗設温度 	<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料は品質、形状、寸法、使用方法を目視で把握する。 ・セメント及びアスファルト乳剤の使用状況を把握する ・一層の仕上り厚、並びに仕様書に定められた機械で施工しているか把握する。 ・一軸圧縮強度、締固め密度を把握する。 			把握	一般：1回/ 1工事 重点：1回/ 3000m ²	

6-13-4-7： 路上表層再生工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提 出 書 類	添 付 書 類	方 法	頻 度	
舗設時	6-13-4-7	<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料、敷均し、締固め状況、天候気温、舗設温度等 	<ul style="list-style-type: none"> ・既設表層混合物の品質により、添加材料の使用量等、混合物の配合を把握する。 ・舗設時については、第1編3-6-5アスファルト舗装工による。 			把握	一般：1回/ 1工事 重点：1回/ 3000m ²	

6-13-4-9: 歩道舗装修繕工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
舗設時	1-3-6-5	<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料、敷均し、締固め状況、天候、気温、舗設温度等 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか把握する。 ・下層、上層路盤（粒状路盤） 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、締固めが、行われているか把握する。 ・下層、上層路盤（セメント及び石灰安定処理） 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石灰量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、天候、敷均し、締め固め状況について把握する 			把握	一般： 1回/1工事 重点： 1回/3000m	

第7節 現場塗装工

6-13-7-3: 橋梁現場塗装工

6-13-7-4: 付属物塗装工

6-13-7-5: 張紙防止塗装工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻 度	
清掃・錆落とし施工時	6-4-5-3	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃・錆落とし状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃、錆落とし状況を把握する。 			把握	1回/1工事	
施工時		<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料、天候、気温 	<ul style="list-style-type: none"> ・塗料缶の数量及び製造年月日(有効期限)、天候と気温が施工に適しているかを把握する。 			把握	1回/1工事	

第 7 編 下 水 道 編

第7編 下水道編

第1章 管路

第4節 開削工

7-1-4-3 : 管の布設

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻度	
施工時		施工状況	設計図書及び施工計画書と現地を対比し、基礎工、管の接合養生等の全般について施工状況を把握する					
施工完了時		基準高、管の状態	基準高、勾配、方向、漏水の有無等の管の状態を確認する					

第5節 推進工

7-1-5-2 : 掘削

7-1-5-3 : 推進工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻度	
施工時		推進管材料	材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する。					
推進時		切羽の状況	地山土質や湧水状況に応じて適切に切羽の安定確保が図られているか把握する。					
推進完了時		基準高、勾配	推進管の基準高、勾配、方向の適否を確認する。					

7-1-5-4 : 裏込め注入工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻度	
施工時		注入材料の適否	材料確認を受けた材料を適切な配合で使用しているか確認する					
		施工状況	適切な注入圧、注入量で施工されているか把握する					

第6節 シールド工

7-1-6-1 : シールドマシンの構造

7-1-6-2 : 一次覆工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻度	
着工準備		シールドマシンの構造	設計条件に対して、作業の効率性、安全性、確実性を適切に確保できる構造になっているか把握する					
施工時		覆工の適否	材料確認(品質・規格)を受けたセグメント材料が緊結され適切な真円度が保たれているか把握する					
一次覆工完了時		基準高、勾配	1次覆工後の清掃状況基準高、勾配、方向の適否を確認する					

7-1-6-3 : 二次覆工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻度	
着工準備		内挿管材料の適否	材料確認(品質・規格)を受けた材料を適切に使用しているか確認する					
施工時		中込材の適否	材料確認を受けた材料を適切な配合で使用しているか確認する					
		施工状況	内挿管の適切な真円度を保ちながら、中込材が適切な注入圧、注入量で施工されているか把握する					
施工完了時		基準高、勾配	1次覆工後の基準高、勾配、方向の適否を確認する					

7-1-6-5 : 裏込め注工

施工段階	仕様書との関係	内 容		手 続		監 督		備 考
		項目	留 意 事 項	提出書類	添付書類	方法	頻度	
施工時		注入材料の適否	材料確認を受けた材料を適切な配合で使用しているか確認する					
		施工状況	適切な注入圧、注入量で施工されているか把握する					